巻 頭 言

古 川 進 一

山の日が制定されて

日本は平地が少なく、高さの差こそあれどの県にも山がたくさんあり、いにしえの昔より山に関わることが多かったわけで、「山の日」の制定は遅いくらいでした。

昔から、山には神が宿り信仰の対象となっていたため、人間とは密接なかかわりを持ってきました。

私達が登山するときでも、登山口や峠、そして山頂には必ず神様が祭られています。

農業をされる方は山の姿（特に雪形等）の変化で農作業の手順を考えたり、海に関係する漁民は天候の具合を山にかかる雲や霧で判断してきました。

山登りも、人間が山からの恩恵を感謝する意味で行っていたものです。

現在は山から受ける自然の素晴らしさを享受したり、健康作りのための登山になってきています。

これからも山に登るにあたって、ゴミの持ち帰り、登山道を荒らさない、高山植物を大事にする、入山時には必ず登山届を出す、体力にあった無理な行動をとらない、等々他にもありますが、山では絶対に事故をおこさないと強い信念を持って登山を行ってください。

目　　次

○　巻 頭 言　　古 川 進 一　　1

○　山行報告

博士山（キノコ山行）	内 田 章 子	4
金峰山	佐久間美智子	6
浅間隠山（忘年山行）	高橋 恵美子	8
天狗岳	宮 崎　睦	9
スキー合宿　黒檜山「赤城山」	井 上 里 美	12
スキー合宿（宝台樹ゲレンデスキー）	高 橋 充 夫	14
西吾妻山・雄国山（山スキー）	高 橋　忠	16
栗駒山（山スキー）	水 野 照 雄	18
燧岳	宮 崎　睦	20
鳥海山（山スキー）	遠 藤 博 昭	23
谷川岳	原 田 裕 之	25
飯豊、山菜山行	金 井 秀 明	26
栗子　滑谷沢左俣	高 橋　忠	27
滑川温泉と大滝沢	金 井 秀 明	31
雄国沼・杉田川	宮 崎　睦	32
白根三山	バーチカル	35
雨飾山	高橋 恵美子	38
飯豊・大日杉小屋から	内 田 章 子	40
秋田駒ケ岳・姫神山	水 野 照 雄	43
今はなつかしいが冷や汗ものの山	小山田 泰幸	47

○　市民バス山行
第100回　天城山　佐藤　實　48

○　市民バス山行を顧みて　古川進一　50
バス山行への想い　水野照雄　51
市民バス山行の記録　52
バス山行　登山図　53

○　屋久島　幻の竜王の滝　金井秀明　54

○　チーフリーダー記　宮崎　睦　55

○　新人紹介　56
○　例会場所の変更　56
○　ホームページについて　56

○　表紙のことば　金井秀明　57
○　平成28年度役員　57

○　ふみあと　58

○　編集後記　60

博士山（キノコ山行）

内 田 章 子

日　　程　平成２７年１０月３１日～１１月２日

パーティ　遠藤 、高橋（忠）、佐藤、、宮崎、高橋（充）、内田、他１名

いつからか「キノコ山行」とよばれるようになった、この時季の山行も今年で１０年目になり、山は１回と同じ博士山に決まった。

１１月１日　博士山登山口のある林道は、遠藤さん、高橋(恵美)さんと３人で訪れた10年前とはすっかり様変わりして、きれいに舗装され広い立派な道路になっていた。正規の登山道横の倒木で、いきなりナメコを沢山見つけて大騒ぎした所は工事の人達が使っていた様子でキノコのキの字も見えない場所に変わってしまっていた。

遠藤さん、沼橋さんと３人を除いて、男性４人は駐車場で身支度をして、道海泣き尾根登山口から登って行き、私たち３人は下山口になる近洞寺登山口から行くことにした。こちらの登山口には駐車場がないので林道の際に車を止め登りだす。前回の山で痛めた膝の調子が思わしくなく、注意をしながら歩く。急な斜面はぬかるんで滑りやすく、下りを考えてあまり上まで行かないうちにと２人には先に行ってもらい、車で待つことにする。こういうこともあるかもしれないと、一人用のカートリッジなども用意し、待ち時間にコーヒーでも沸かそうと思ったが、道路が良くなった分、通る車も増えて道端でお茶など沸かしてはいられない感じになってしまった。

「キノコが採れる所まで行ったら帰ってくる」と出掛けたが、遠藤さんと沼橋さんのことだから尾根上の分岐まで行くのでは・・・と、時間を計って待っていたが、思ったより早くキノコを沢山持って下りてきた。車の中だけでは時間を持て余し気味だったので、内心ほっとする。　道海泣き尾根登山口の駐車場に戻り、椅子など出してお茶をしながら皆を待つ。頂上経由で一周した人達とは携帯が繋がっていたので大体の時間もわかり、下りる頃を見計らって下山口へ遠藤さんが迎えに行く。帰ってきた皆も食べきれない程の大量のムキタケを採ってきた。　山頂辺りは少し前に降った雪で真っ白だったらしい。

沼沢湖は辺りの紅葉を映して静かに水を湛えていた。このバンガローには、とうとう１０年も通ってしまった。なんだか“帰って来た”という感じだ。手続きを済ませ、いつものようにみんなでキノコを鍋用、ステーキ用にと下ごしらえする。大量なのでお土産用も沢山できそうだ。大体の仕度をしてから、例の如く早戸温泉“つるの湯”でさっぱりする。

毎年同じようにキノコ鍋を作り、ムキタケステーキを作り、食べるものも同じならこれまた、お酒を飲みながら、中学生レベルの似たような話で盛り上がり、「飽きない

ねぇ」という声が聞こえてきそうだ。
ところが今夜は少し違っていた。
「サプライズでーす」と言って忠さんが、クーラーボックスから大きなケーキを出してきたのだ。プレートには“Happy-birthday 章子さま”の文字。
あまりに突然でびっくり！遠藤さんのハッピー・バースディの歌に合わせてローソクを消し、みんながクラッカーを鳴らして祝ってくれた。嬉しさと驚きで戸惑い、喜びの表現ができない。　　本当にありがとうございました。
いつもブレーキをかけてくれる水野さん不在で、その後も賑やかに宴会は続く。
１１月２日　　遅くまで飲んでいてもみんな朝から元気な様子。
１０年通ってまだ一度も行ったことのない、すぐ近くの“妖精美術館”を見学する。妖精に関する物を専門的に展示してある美術館は、日本で唯一ここだけだというが、中は非現実的な世界が広がる。また、柳津町の福満虚空尊圓蔵寺も見学とお参りをして今年のキノコ山行を無事終える。

１１年目になる来年もまた、この沼沢湖に来るのだろうか？
また、“帰って来る”かも知れない。

コースタイム　　道海泣き尾根登山口　7:35　－　休息(1000M)　8:25～8:40　－
シャクナゲ洞門　9:00　－　分岐　9:40　－　社峰　10:20～10:35
博士山山頂　10:50～10:55　－　分岐　11:50～12:00　－
大谷滝登山口　14:05

金 峰 山

佐 久 間 美 智 子

日　　程　　平成２７年１１月１２日～１４日

パーティ　　宮崎、遠藤、高橋(忠)、佐久間

12 日　夜小見川を出発し、首都高、中央自動車道へ。私はこの道が好き。
山や旅行と、楽しいことが、いつもこの道から始まった 20 代。
私の“青春ロード”(今日勝手につけました)
道の駅「花かげの里まきおか」でテント泊

13 日　昨夜は暗くわからなかったが、売店の軒先に下がった干し柿（ころ柿という大きな柿）のオレンジ色のきれいなこと。そして周りの山々の紅葉。私達は一晩で秋にワープ。テントの中で朝食を済ませ、登山口である大弛峠へ向かう。

駐車場にはすでに１０台くらいの車。そして看板には「大弛峠は車で越えられる峠としては日本一高い峠２３６５ｍ」と書かれている。

遠藤さんを TOP に秋の陽を浴びて歩き出す。それほど歩いていないのに木々の間から富士山が見えたのには、嬉しさと驚き。そうだよねー、２０００ｍを超えてるんだもんね。

ほどなく朝日峠。木々の中にポッカリ空いた空間、大きなケルンが一つ。静かで、まるでパワースポットのよう。さらに登ると展望のいい岩稜で（大なぎというポイント）雲海から雪の帽子をつけた富士山を、遮るものがなく対話するようにうっとりと眺める。
♫頭を雲の上に出し～♫　の唱歌そのもの。

朝日岳の山頂も景色がよく、鉄山、金峰山、その奥に南アルプスの稜線。
まるで「おいでおいで」と言っているよう。

金峰山の頂上にはお昼前に到着、金峰山シンボルの五丈岩の前に鳥居。無事に登ってこられた事と景色に感謝してくぐる。年配の方、若い人もいて寂しすぎず、込み合わずのいい人数。２０ｍという大きな五丈岩、神秘を感じて見上げ、裏に回って言葉もなく更に見上げる。３６０度の展望の中で飲むコーヒー、なんとも贅沢で幸せなお昼を済ませ、登ってきた道を下りる。見晴らしのいいところでは、いつでも富士山が見られ、なぜかホッとする。
そして今夜は大弛小屋でテント泊。

１４日　昨日が秋なら今日は冬。雪である、風も強い、国師ヶ岳を断念し、観光しながら帰路へ。
まず「ほったらかし温泉」で入浴。晴れていれば富士山、甲府市街が一望らしい、でも笠をかぶっての（雨模様なので）露天風呂もなかなか良い。

売店でころ柿を買う。８個くらいで１０００円～１２００円。
“ご自由にどうぞ”の張り紙と共に少し熟れたころ柿が！
「遠藤さんの分も貰うね」と調子のいい事を言って３個くらい…。
その後は温泉下にある笛吹川フルーツ公園をぶらぶら回り、武田信玄ゆかりの恵林寺へ。ほうとうを食べ秋色に染まった寺院をしっとり見学。
皆さん、お世話になりました。

ＰＳ　　ころ柿は大きいので乾くまで日数がかかりました。
　　干し柿になる過程を楽しみ、おいしく食べました。

コースタイム

大弛峠８：15　～　朝日峠８：50　～　朝日岳９：55　～金峰山 11：30

金峰山 12：40　～　朝日岳 13：50　～　朝日峠 14：30　～大弛峠 15：00

浅間隠山（忘年山行）

高 橋 恵 美 子

日　　程　　平成２７年１２月１６日～１８日

パーティ　　水野、遠藤、佐藤、宮崎、高橋(忠)、内田、高橋(恵)

私を除くメンバー全員が浅間隠は登っている。他の山に、との圧力が無いでもなかったが、そもそも私の介護疲れを癒す目的で、内田さんと二人「軽い山に登った後、ゆっくり温泉に泊まる」つもりの山行だったので、圧力には屈しませんでした。

１７日。二度上峠に近づくと、前日に降った雪が薄っすら積もっていた。どんよりとした天気でお日様は望めないかも。

登山口の大きな看板には頂上まで９０分とある。楽勝か？　内田さんの記憶では楽だったそうだ。歩き出しは細い沢沿いの道を行く。要所要所に矢印付きの看板が立てられている。白い看板を左方向に。次に青い案内板の前を右に曲がって、緩やかな笹原の道を少し歩いたところで休憩。止まると何だかうすら寒い。ここから稜線に出るまでが一番の急登。笹原の中の冬枯れの道を行く。楽勝！　楽勝！　と思い込んでいたせいかどっと疲れる。

稜線に出、左折。そこからは見た目ほど遠くはなく、１５分程で頂上到着。雪を被った浅間山がゴルフ場の向こうにドーンと現れました。近い！　いつも見慣れた縞々模様ではなく、長く裾野を引いた美しい姿です。頂上付近は雲がかかってはいるものの写真を撮るにはちょうどいいかも。周囲の山々の展望もまずまず。

平日ど真ん中なので誰もおらず貸し切りです。ゆっくり景色を楽しんだ後、下山にかかる。途中、忠さんお手製の白玉ぜんざいをいただく。何を作ってきてくれたのかと毎回楽しみにしている。ご馳走様です！　併せて宮崎さんの　？歳の誕生祝いをする。持ち上げたスポンジと生クリームで簡単なデコレーションケーキを作ったが、出来上がりはいまひとつ。それでも喜んでくれたので良しとしよう。

登山口に戻ると雪はすっかり消えていました。

１８日、小浅間山に登るべく峰の茶屋へ移動。朝から快晴だ。浅間山は登山禁止になっているが、小浅間山までは入れる。未舗装の林道を４０分程ゆるゆる歩いて馬返し。ここから砂礫の登山道をひと登り。素晴らしい眺めが待っていた。絶景！　青空をバックにまっ白に光り輝く浅間。コントラストの美しさ、その大きさに圧倒される。カメラを構えてはみたものの、大き過ぎてどう撮ったらいいのかわからない。たった1時間歩いただけでこんな眺めが手に入るなんて・・・　予想以上の展望の良さに、只々満足。いい山でした。

天 狗 岳

宮 崎　睦

日　　程　　平成２８年２月４日～５日
パーティ　　宮崎、他２名

４日

自宅を朝４時に出発し、つくば市のクライミングジム「スポーレ」に６時集合する。ここには２４時間営業のスーパー銭湯があるため、駐車場も閉鎖になることがなく、待ち合わせには便利な場所です。

ジムで知り合った牛久市のＡさん、日立市のＴさんの３名による山行で、谷田部ＩＣから常磐道、首都高、中央高速のルートで走行し、諏訪南ＩＣで降り、渋の湯に到着しました。

渋の湯に向かう道はＩＣから少し走行すると凍結し、渋の湯に近づくにつれて登り坂の道路は段々と細くなるので慎重に運転しました。

渋の湯の駐車場にはすでに１０台以上の車があり、駐車料金２日分２千円を支払い、準備をして出発しました。

渋の湯に到着した時の気温は―７度で、寒いが天候は快晴の登山日和です。渋の湯からの登りは、トレースが適度に踏み固められており、潜ることもなく、アイゼン無しでも滑ることなく登れました。

２人共歩くのは速く、先行されると追いつけないので私が先に歩き、衣類調整で１回小休止し、黒百合ヒュッテに到着しました。

ヒュッテのベンチで昼食を取り、アイゼン・ピッケルの装備で、ストックはヒュッテの所に置いて出発しました。

中山峠を過ぎ、樹林帯が無くなった所からは強風となり、快晴ですが寒さが身に染

みる登りで、雪は低温のため固まらずパウダーでした。急登の所は砂山を登る様な感じでアイゼンの利きが悪く、稜線は雪煙が舞い、突風で体が振られる事がある登りで、途中で１回カメラを出したのみで東天狗山頂に到着しました。

周囲の眺望は素晴らしいのですが、強風と寒さのため西天狗まで行くのは中止として、１０分位写真撮影をして下山です。

下山の急斜面もアイゼンの利きが悪いので慎重に下り、樹林帯に入ると風は収まり一息つけました。

樹林の合間から見える風雪の山を名残惜しく眺望し、ヒュッテに帰ると、前の斜面では、ツアー客がガイドの指導でアイゼントレをしていました。

小屋で宿泊料金（８８００円）を支払い、外套を脱いで荷物の整理をしてから、炬燵でＡさんの赤ワインとＴさんの泡盛をいただき、夕食までまったりとした時間を過ごせました。

黒百合ヒュッテは、平成８年１０月２１日～２３日に、勤め明けに単独で電車で来て、渋井の湯～天狗岳～赤岳～清里駅まで縦走した時に宿泊して以来です。

その時は土間に薪ストーブが１基有っただけで、非常に寒かった記憶が有りますが、今は薪ストーブが有った所には固定式石油ストーブ、奥の所には大きな新型の薪ストーブが有り、他にも数個の石油ストーブが置かれ、外観に変化は無いのですが温かい小屋になっています。

木曜日でも、宿泊客は他にツアー客１０名、単独者２名の計１５名で、テン場には韓国人が４名単独のテントで宿泊しており、人気の雪山は平日でも賑わっています。

夕食は１７時３０分で、北アの大規模な小屋と比較すると食事の内容は豪華とは言えませんでしたが、温か味の有る食事でした。

消灯時間は２０時３０分ですが、寝室は２階の一部屋で、全員１９時頃には布団に入り寝ました。しかし１５人いるため、体温で室内が夜中には暑くなりました。

５日

朝食は６時からのため、６時少し前に起床し、朝食を取り、予定では天候が良ければ昨日行けなかった西天狗まで行こうとの事でしたが、天気は良いのですが、昨日よりも風が強いため中止として下山としました。

下山はアイゼンを装着して歩いたので、滑ることも無く渋の湯に到着。途中ですれ違った登りの人は７名位おり平日なのに人気の山です。

９時から営業している縄文の湯で入浴し、時間も早いので２人共諏訪大社は参拝したことが無いとの事でしたので参拝し、昼食に手打ちそばを食べて帰路に着きました。首都高では渋滞になりましたが、１７時３０分頃にスポーレに到着し解散しました。

山岳会のメンバーとは違った人との登山や、天狗岳の雪山も４回目ですが、強風で有ったが快晴で眺望も楽しめ、久々の営業小屋泊も新鮮でありました。

コースタイム

４日

渋の湯	１０:３０
唐沢鉱泉分岐	１１:４８
黒百合ヒュッテ	１２:３０～１２:５５
東天狗岳	１４:１５～１４:２５
黒百合ヒュッテ	１５:２０

５日

黒百合ヒュッテ	７:３０
渋の湯	８:５５

スキー合宿　黒檜山「赤城山」

井 上 里 美

日　　程　　平成２８年２月１９日～２１日

パーティ　　宮崎、水野、遠藤、高橋(忠)、井上、佐久間

昨年の私の初めてのスキー合宿は、豪雪の為前橋手前で引き返したが前夜出てから丸24時、車中で頑張ってやっと帰り着く、という事に終わってしまいましたが、今年は雪が少ないながらも無事参加してきました。

２０日　前夜に小見川を出て、道の駅「赤城の恵み」でテントを張り仮眠。翌朝７時３０分には黒檜山登山口より雪の着く急坂をアイゼンを着け登り始めました。直ぐ下には赤城神社が赤く見え、その周りの湖氷にはワカサギ釣りの色とりどりのテントが散っていて美しい。雪の積もった道は明るく気持ちよく楽しい登りだ。厳しい高山でなく、こんな低山の雪山は還暦を過ぎた私にはちょうど良いと実感できる。斜面から尾根筋に出ると見晴らしも良くなり、間もなく黒檜山山頂に着いた。ちょっと先の展望台へ行く頃にはガスが切れ、かなり遠くの山々が見え始め、低山でも雪が着くと、こんなに素晴らしい眺めになることに驚いた。

山頂のガスの動きは速く、その合間に見える景色はまた格別である。皆、時間を忘れて見入ってしまった。下りはアイゼンの爪を引っ掛けないように注意しながら慎重に下るが、正面に見える湖が美しく、ついよそ見をしてしまう。途中の陽だまりのような斜面でティータイム。忠さんからのマシュマロ入りホットチョコレートの振る舞いがあり、いつもながらの心遣いに頭がさがります。「ご馳走さまでした。」

１２時には登山口に下り、早めに温泉で温まり、ゲレンデスキー組と合流する民宿へ「ゴー」。

２１日　今日もスキー組と別れて、宝樹台スキー場の上部方面にある大幽洞窟を目指す。９時３０分、右手にスキー場を見ながら林道をスキーやスノーシューで歩くと間もなく洞窟への分岐点に着く。私は初めてですが何回も来ている人によると、今年は雪が少なくこの先が心配とのこと。林道からはなれ沢筋を行くが、やはり積雪が少なくスキーで歩くのがおぼつかない。帰りが心配になりコース取りばかりを考える。洞窟が見えてくる辺りから急斜面になっておりスキー板をデポ。

１１時大幽洞窟着。横長のちょっと大きめな割れ目程度の洞窟で、立つことは出来ない。中に無数の氷筍があり、下はツルツルで危ない！危ない！　現に転んだ人がいて相当痛かったようでしたが、「男は黙って耐えるのみ」に徹していました。

下山になるとやはり雪の少ない沢底に落ちるのは嫌なので、私は少し上の急な斜面のトラバースルートにしました。立ち木がうるさいけれど一部快適に滑れる所もあり、どうにか難所を過ぎると、後は平凡な林道滑りになりあっけなく１２時終了。最後は

左に見えていたスキー場に入った方が気持ち良かったかもしれません。

　この後は上牧の「風和の湯」に入り、ちょっと積雪が少なく残念でしたが、私の実質初めてスキー合宿は無事終わりました。皆様、有難うございました。

↑ 黒檜山山頂

← ゲレンデ組と一緒に

大幽洞窟 →

スキー合宿（宝台樹ゲレンデスキーグループ）

高 橋 充 夫

日　　程　　平成２８年２月２０日～２１日
パーティ　　佐藤、永井、関(現地合流)、高橋(充)

２月１９日の午後５時過ぎ、小見川支所を出発。目指すは群馬県の水上宝台樹スキー場である。福島県のスキー場をメインで滑ってきた自分にとって、宝台樹は銀嶺山岳会に入ってから知ったスキー場であり、このスキー場の持つスケール感や高度感に強い印象を持っていた。今年も宝台樹を滑れるとワクワクしていた。

今年は暖かい冬であった。それは２月のこの時期でも変わらなかった。今シーズン始め、日本各地のスキー場が雪不足でゲレンデオープンできない、とのニュースが報道されていたのを思い出す。実は今シーズン始めの１２月暮れの裏磐梯でも、それは感じていた。道に雪がない。いつもならこの時期、猪苗代I.C.を降りれば道端に除雪された雪が積み上げられ、道も雪で白くなっているのが普通であるのに、全く雪がない。乾いた舗装路をスタッドレスタイヤがむなしくゴーゴーと音を立てて走っていたのだった。それでも豪雪地帯の水上の２月。さすがに雪はあるだろう、と期待感は持っていた。車中は年季の入ったスキー板やブーツの話題で盛り上がっていたせいか、あっという間に常磐道、北関東道、関越道を通過し、途中のS.A.で遅い夕食を食べても、午後９時前には関さんがお住いの水上町を走っていた。昨年は水上町に入ると町中にも雪の塊があちこちに見られたが、今年はそれがない。日本の冬はどうなってしまったのか、道路はどこも乾いていた。

昨年に続いて関さんのお宅に泊めていただけることになっていた。昨年は遅い時間に到着になってしまって、関さんにご迷惑をかけたことから、１時間早く小見川を出発したことが、かえって早すぎる時間の到着になってしまった。到着を告げると関さんからも「早かったね」と驚きの言葉。一年ぶりに会った関さんにお酒をご馳走になり、楽しく語らい、暖かい布団にくるまりながら今晩どっと大雪が降ってくれることを願いつつ眠りについた。

翌朝、残念ながら雪が降った形跡はなかった。この分ではゲレンデも・・・。一抹の不安を感じつつ、関さんも交えて宝台樹スキー場へ出発。

スキー場では雨に降られた。リフトに乗っている間、雨粒がスキーウェアを濡らす。初日は早々に切り上げて民宿本家に入った。昨年は除雪した雪が積み上げられて、宿の駐車場も狭く感じたが、今年はなんと広いことか。どこでも止め放題である。昨年は一晩の間に車の屋根に雪が高く積もっていたことや夜中に積もった雪が屋根から滑り落ちる音が聞こえていたことを思い出す。明日はどうかな。ドカッと降ってくれま

すように。そんなことを期待しながら、早めに床についた。

はたして翌朝は、残念ながら、駐車場は昨日車を止めた状態のままであった。昨晩も雪は全く降らなかったようだ。どんよりした空を見上げると快適な滑走感は期待できないことはすぐに想像できた。

日頃の心がけの悪さか、二日目のスキーも雨に見舞われた。ターンしても雪煙ならぬ水しぶきであった。空からはパウダースノーならぬ雨粒が落ちてくる。スキー場で降られる雨ほど悔しいものはない。防水効果が薄れたウェアは雨に濡れて重くなってくるし、水気の多い雪はスピードも出ず、滑走感もいまひとつであった。ターンするたびに脚に負担がかかる。二日目も早めに切り上げることになった。こんなこともあるか、と諦めつつも残念な気持ちで一杯だった。

暖かい冬は生活するにはありがたいが、やはりスキー場には雪が降ってほしい。冷え込んで乾いた雪がたっぷりとあってほしい。そんな都合のいい身勝手なことを思いつつ、今年のスキー合宿を終えた。

西吾妻山・雄国山　（山スキー）

高 橋　忠

日　　程　　平成２８年３月１０日～１２日

パーティ　　宮崎、高橋（忠）

今年最初の山スキーである。ゲレンデで練習した成果が出るか不安と期待をもって、小見川を２０時に出発した。今夜は三春ＰＡで仮眠。１１日朝８時少し前にグランデコスキー場に到着。８時半からのゴンドラ運行開始に併せて準備し、ゴンドラとリフトを乗り継いでゲレンデトップまで。ここでシールを貼り付けて９時２１分ゲレンデトップを出発。途中から小雪がちらつく中、樹氷を見ながらまずは西大巓を目指して進む。２時間弱（１１時１１分）で西大巓に到着する。夏道のコースタイムが、地図によると1:45なので、まずまずのペースで来たかなと思う。ここから最初の滑り出しである。雪質がいいかなと思って調子よく滑り出したが、ちょっとガチガチで滑り出してすぐコケてしまった。これはまずいと気を引き締めて滑っていく。なかなかいい斜面である。西吾妻小屋までの中間辺りから少し登り返しになる。小屋を１２時２４分通過。山頂を目指して更に登っていく。１２時４２分、西吾妻山頂到着。標識は埋まって見えないが、広く平な所だ。雪が降って周りは何も見えない、それぞれポーズをとって写真を撮り、すぐ引き返した。山頂からの下りは、雪が少ないこともあって、木が混み合っていて滑るのに苦労した。西大巓に着いた辺りから雪が更にひどくなってきたので、急いで下る。更にゲレンデを滑り降り、１５時４８分、グランデコスキー場を後にする。　猫魔ヶ岳・雄国山のバス山行で、入浴&昼食を食べた「ラビスパ裏磐梯」で入浴。道の駅「裏磐梯」まで戻り、そこにテントを張る。我々以外誰もいない、道の駅貸しきりである。１８時３６分、ビールで乾杯。豆腐とモツの鍋で、今日の疲れをとる。明日はもっと快適な山スキーが出来ればいいなと、期待しながら眠りに就く。

西吾妻山山頂にて

３月１２日　「ラビスパ裏磐梯」の駐車場に車を停め、ここから７時３７分発のバスで雄子沢登山口まで移動。今日は良い天気だ。７時５８分、雄子沢川沿いに雄国山へ出発。宮崎さんの話によると、沢は雪で埋まっているはずなのだが、今年は雪が少なく、沢が埋まっていない。たかつえスキー場のいつもお世話になっている、民宿の８０過ぎのおばあさんがこんなに雪が少ないのは初めてだと言っていたが、今年は本当に異常だ。沢の上の結構な急斜面をトラバースしていく。スキーで歩いたり、ザックにスキーを取り付けて歩いたりを何度か繰り返した。沢に滑り落ちないようにと神経を使い、時間を使い、体力を使い、やっとのことで雄国沼の見える辺りまでたどり着いた。ここまで約３時間も費やした。休む間もなく登り、雄国沼から雄国山に行く登山道の中間辺りの稜線に出る。山頂まであと少しだ。周りの雪景色を見る余裕が少し出てきた。バス山行で来た、秋の景色とは全く違って、雪景色もすばらしい。右手に磐梯山、後方に雄国沼、猫魔ヶ岳、ちょこんと見える猫石、いい眺めだ。１１時３８分、ついに雄国山山頂到着。山頂は何もないかと思っていたが、展望台も、標識も埋まっていない。さらに若い男女のカップルが１組、先に到着していた。山スキーかと思ったら、登山客であった。我々より遅く登って、早く着いたようだ。記念写真を撮り、しばし休憩（昼食）。あまり長居するとカップルの邪魔になるので、１２時２６分、ラビスパ裏磐梯を目指し、山スキー開始。昨日とは打って変わって、雪質がとても良く、なだらかな斜面で快適な山スキーが楽しめた。スキーが上達したような錯覚を起こす。コース中頃から少し緩い登り返しがあり、ラビスパ裏磐梯に降りる東口コースと西口コースの分岐に出る。我々は、東口コースを下ることに。これが大失敗、急斜面で樹間が狭く滑って降りられない。スキーを担いで何とかラビスパ裏磐梯に、１４時８分到着。ここで入浴して、磐梯高原ＩＣから帰途に着く。

←雄国山山頂

↓ 雄国沼をバックに

栗 駒 山（山スキー）

水 野 照 雄

日　　程　　平成２８年３月２８日～３０日

パーティ　　宮崎、遠藤、高橋（忠）、水野

栗駒山への山行は数えてみると６回目になる。山スキーでは 19 年前に佐藤さん、遠藤さんと 3 人でイワカガミ平の避難小屋泊まりで楽しんだ記憶がある。登山口の辺りは平成 20 年の岩手宮城内陸地震で大きな被害があった場所である。家族で泊まった思い出がある駒の湯でも大きな被害があった

イワカガミ平への道は除雪中でゲートの所にある大きな駐車場に車を止める。
天気は快晴で風もなく最高の登山日和である。除雪はかなり進んでいるらしく、歩き始めの道路は乾燥している。スキーをザックに着けて道路を歩くと言う３人と別れて右の樹林帯をスキーで登る。上部で合流して全員スキーでの登高となり、
まもなくイワカガミ平に到着。

ここからは樹林帯を出て雪原の緩やかな登りとなる。右手には東栗駒、左手奥に栗駒山が見える。早くも滑り降りてくる人に出会う。駐車場で私達が準備している時出発していった人だ。相当のスピードで登ったことになる。話してみたらガイドをしている人とのことで納得する。

風も無く、晴天で素晴らしい条件だが暑い。下着1枚になってノロノロとスキーを前に送る。いつの間にか仙台から来たグループ4人が追い付いてくる。私達と同年代の方々だが、皆さん元気だ、テレマークの人も混じっている。頂上直下の鞍部で最後の休憩をして、頂上へ続く大斜面を登る。

頂上からは360度の展望で、雪に覆われた東北の山々を見渡す事が出来た。さすがに頂上では少し風があり、じっとしていると寒い。記念写真を撮り、早々に滑走の準備にかかる。

頂上から鞍部までは雪質もよく、斜面も適度な傾斜で十分幅も広く、私でもスキーを楽しめた。もちろん他の3人は、きれいなシュプールを残して、一気に滑り降りていった。所々でているブッシュを躱しながら緩斜面を滑り、適当なところでお茶にする。

春山の真っただ中、スキーを立てて、雪面に座り込み、風景を眺めながら飲むコーヒー、タバコに火をつければ、もうこれ以上望むものはない幸せなひと時である。

ここから更に緩斜面を滑り、イワカガミ平からはブナの森に入り、林間滑降となる。樹間は十分広く、気持ちよく出発点のゲートまで滑り込む。

車で世界谷地の入り口まで行き、様子を見てから今夜の宿であるハイルザーム栗駒へ行く。豪華なロッジで寛ぎ、温泉に入って、晩飯の支度にかかる。摘んできたフキノトウの天ぷらは早春の定番、今年もまたおいしく食べさせて貰いました。宮崎シェフが用意してくれ

た鉄板焼きは豪華そのもので、久しぶりに満腹を通り越して、苦しくなるまで食べてしまいました。遠藤さん、忠さんもウィスキーを幸せそうに飲んでいました。

翌日は観光をして帰ろうという事になり、石ノ森章太郎記念館と青葉城を見て帰りました。

コースタイム

29日

登山口駐車場	7:30
休息	8:25～8:40
イワカガミ平	9:00
休息2回	
栗駒山頂	11:30～11:55
休息	12:20～13:00
登山口駐車場	13:40

燧　岳

宮 崎　睦

日　　程　　平成２８年４月２２日～２４日
パーティ　　高橋(忠)、宮崎

２２日

小見川役場に19時集合で出発し、宇都宮上三川ＩＣで北関東道を降り、119号線で宇都宮ＩＣまで行き、東北道の那須塩原ＩＣで降りて、道の駅「番屋」には23時半頃には到着し、東屋にテントを設営して仮眠。

北関東道から直接東北道で那須塩原ＩＣまで行くよりも、距離は約30キロ短縮できるので高速料金も安く、一般道が空いている時は高速道で行くよりも時間も短縮となります。

２３日

５時頃に起床して、テント内で朝食を取り出発する。途中の道路は桜が咲いて綺麗で、たかつえ付近はかなり散っていましたが、桧枝岐は最盛期を少し過ぎた位で綺麗でした。

今宵宿泊予定のキリンテのかわばたキャンプ場は、早朝で管理人のおばちゃんが来ていないため、バンガローの予約を忠さんがスマホで連絡してから、御池へと向かう。

御池までの道路は、七入を過ぎると例年は除雪して雪壁になっている所も有るが、今年は雪壁が無い。

七入から御池までの冬季通行止は、例年だとゴールデンウイーク直前に通行解除となりますが、先週の土曜日である16日には解除となっており、２週間早くなっています。

御池の駐車場は綺麗に除雪されており、駐車場の山側は１メートル弱の雪壁になっていました。

４月は無料で駐車でき、料金徴収用のゲートも撤去されたままで、土曜日のため先着の山スキーヤーやボーダーも多くおり、出発の準備をしています。

シールを装着して登り始めると、積雪量が少ないため木の枝が多く出ており、枝が体や板に引っかかりあまりシールも効かない登りです。

広沢田代で休息し、熊沢田代手前にあるピーク（1986m）は左に巻いて行きましたが、

そのままピークを目指して直登するパーティーもありました。

熊沢田代で休息しましたが、積雪が少ないので木道の見えている所が有ったのは驚きです。

山頂手前のピークまでの急登は、雪が緩んで板が潜ってしまいシールが効かず、板を背負っての登りとなってしまいましたが、技術と体力のある人はそのまま登ってきていました。

山頂手前のピークで板を外しツボ足で山頂まで行き、時間の余裕が有るのでお茶タイムを取り休息です。

天候が良いので眺望も素晴らしく、新潟の山々も良く見えました。尾瀬沼は積雪で覆われていますが一部は溶けていました。しかし驚いたことに、尾瀬ヶ原には積雪がまったくありませんでした。

シールを外して滑り出すと少し潜ります。まあまあの滑りで熊沢田代まで行きましたが、ルートを少し右側に行ってしまい、５m位登り返して熊沢田代に到着。

再びシールを着装してトラバースルートを登ってから、再度滑り出す。ルートを外さないよう注意して行きましたが、どうしても滑りやすい所へ行って、登ってきたルートよりも少し下になってしまいました。私のルートミスで広沢田代へは短い距離ですが、急斜面を板を持っての辛い登り返しとなってしまいました。

積雪の多い時は、トラバースルートより下に回り込んでも沢が埋まっているので滑れるのですが、今年は沢が埋まっておらず水音が聞こえていました。

熊沢田代からの下山は、積雪が少ない為に木の枝が出ている急斜面が多いので滑る

ルートも限定され、横滑りで降りる事が多く楽しい滑りではありませんでした。
　御池からの帰路は、道路脇で夕食の天ぷら用にフキノトウを摘んでから、かわばたキャンプ場に到着です。
　キャンプ場は平年ですとゴールデンウィークでも積雪が有るのに、今年はまったく無しで、５張位のテント客とバンガローの３棟は我々と他の宿泊者もおり満室でした。
　昨年はバンガローの宿泊客は誰もいなかったので、薪ストーブ付きの大型バンガローに２人で宿泊しましたが、今年の小型バンガローはファンヒーターがあり、２名で宿泊するには十分な広さでした。
　バンガローに宿泊すると法人の入浴券を借してくれるので、無料で燧の湯で入浴してから、夕食はまずはビールで乾杯しフキノトウの天ぷらを食べ、のんびりとした至福の時間を楽しみました。
２３日
　予定では、熊沢田代まで行って、のんびりとお茶を飲んで帰る計画でしたが、御池からの登りも下りも木の枝が多いため、前日も快適な行動が出来なかったので中止としました。
　時間に余裕が有るため、入浴券を貸してもらい燧の湯で朝風呂に入り、塩原から八溝山に行き、更に龍神大橋に行きました。
　八溝山は山頂付近まで車で行けるので、駐車場所から２分位で山頂到着し、展望台から見ることのできる山々は、春霞で余り良く見えませんでした。
　龍神大橋は数百匹の鯉のぼりが泳いで綺麗な所でしたが、観光客であふれかえっておりました。
　橋の中央部ではバンジージャンプをしており、料金は１万５千円との事で、高額なジャンプですが人気の様で多くの人がジャンプしていました。
２３日

御池	７：４５
広沢田代	９：１０～９：３０
熊沢田代	１０：２０～１０：４０
休息１回	
燧岳（俎嵓）	１２：３０～１３：３０
休息２回位	
御池	１５：５５

鳥 海 山 （山スキー）

遠 藤 博 昭

日　　程　　平成２８年５月１日～４日

パーティ　　宮崎、高橋(忠)、井上、遠藤

去年に引き続きまた来てしまった。今年は全国的に雪が少なく少し心配していたが、現地についてみるとまだまだ残っており安心した。連休中で人が多く上の駐車場は一杯で下の駐車場に止める。とりあえずここでスキーをはいて、今日の予定の避難小屋を目指す。荷物は夕方日帰りの客が帰ったら車ごと上の駐車場へ上げて今夜泊まる祓川小屋に運ぶことにした。天気もいいし気持ちがいい。9 時 20 分、駐車場を出発する。10 分位で祓川小屋の前に着く、ここから上を見ると頂上までバーンと見えて中々の景色だ。去年と同じくらいの積雪か、2 段目の斜面を登った所で休憩する。今日は先を急がないので長めの休憩、ここからもう 1 段登ると急斜面になって来る、ここを登りきると七ツ釜避難小屋だ。11 時半頃到着。ここまで２時間、こんなものか、板を外し小屋の中で大休止、見渡すと去年より綺麗になっている。泊まる人はいないだろうが、休憩所にはよく使われそうだ。昼を過ぎて下山してくる客が多くなってきた。我々も外に出てスキーのシールを剝がし滑る準備に取り掛かる。小屋の前からの急斜面に少し緊張するが慎重に滑り出す。体が慣れてくると快適になって来る。このまま滑ってしまうと早く着きすぎる。途中で休憩し荷物を置いて空身で登り返して滑りを楽しむ、小屋に着いたのは 15 時頃か。一段落して泊まる準備、駐車場を見に行くと一番前の一等地が空いている。忠さん宮崎さんに確保してもらい車を取りに行く。荷物を運んで小屋に入ると 1 階部分がリニューアルしていて炊事場も綺麗になっていた。ガスコンロだけ昔のままだった。2 階に上がり部屋を確保、今年は泊り客が結構いた。夕方になり夕食の準備に取り掛かる。もちろんだが来る途中につんできたフキノトウの天ぷらもある。この後の事は皆さんも想像出来るので書きません。

5 月 3 日　6 時 20 分出発、天気はいいのだが少し風が出ている上部はかなり強そうだ。よその客がどんどん登って来る。今日は人がだいぶ多そうだ。すでにかなり上の方を登っている人も見える。朝早くから来ている様だ。今日は 2 段目から直登しないで左に迂回し、なだらかなルートを行ってみることにした。井上さんはすでに行っている。忠さん宮崎さんは直登ルートを選んだ。相変わらず強い二人だ。七ツ釜避難小屋前で合流昨日より少し早いか。ここからは傾斜はきつくないがダラダラと長い登りが続き、周りを見るとよその客にどんどん抜かれる。上部に来ると人がどんどん集まって来る。みんな頂上を目指しているんだから当たり前か。いよいよ最後の頂上直下の大斜面にとりつく。風が強くきつい上りになる。ボードを担いでいる人は、煽られてふらついている。休み休み登っているとヘリが飛んできて、下を見ると傾斜の緩く

なった所で人だかりができている。あとで聞いた話では骨折したそうです。この風の強い中ピックアップしている。救助隊の方も大変だろうにご苦労さまです。宮崎さん達とはだいぶ遅れて頂上直下に到着。板を外し頂上を目指すが、凄い風で身をかがめて歩かないと飛ばされそうだ。天気はいいので視界は良く、海岸線も見える。早々に記念写真を取り下山準備に取り掛かる。強風の中でシールを剝がすのは大変だが何とか準備完了。12 時 30 分滑降開始。直下の急斜面はスピードが出ないように慎重に滑る。少し降りて緩斜面になると風も弱まり快適な滑りになる。手ごろな所で休憩をとる。頂上では強風のためゆっくり休んでいられなかったのでお茶を飲んでのんびりする。滑り出すと皆さん上手なのでスイスイ行ってしまう。「あんなに苦しんで登ったのに勿体無い」「少しかみしめて滑ってください」等、なんだかんだ思いながらも 15 時前には降りてきてしまった。さくさくと片付け、車に移動。今夜の宿泊予定である鉾立山荘に向かう。途中で日帰り温泉に入る。ブルーラインは 17 時で通行止めになると言っていたが、余裕で鉾立に着いた。明日の登山口を偵察に行く。反対側に少し下った所で駐車スペースも少しあるのを確認し戻る。数十年前にここから登った事があるのだが、周りが整備されておりイメージが変わった。少し高い所へ行くと日本海が見え景色のいいところである。山荘に荷物を運び、夕食の準備、今夜も楽しくなりそうだ。

5 月 4 日　朝 4 時頃起きてみるとまだ雨は降っていなかったが、二度寝して目が覚めると雨が降っていた。朝食の準備をしながら様子を見ていたが、やみそうになく、ガスも出て来た。こんな中滑る気もしないので全員一致で中止決定。これで今シーズンのスキーは終わった。帰りに鶴岡市内を観光し、藤沢周平記念館などを見て帰ってきた。同行の皆さんご苦労様でした。

七高山山頂

谷 川 岳

原 田 裕 之

日　　程　　平成２８年５月２２日
パーティ　　原田

久しぶりに夏道を登りに来た。ほぼ２年ぶりだろう。５時に鹿嶋の家を出てロープウェイ駅に着いたのが８時過ぎであった。すぐに準備して駐車場を出たが、５分ほど歩いてカメラを忘れたことに気づき車まで取りに戻ったが見つけられなかった。諦めて８時半ごろ再度出発した。

西黒尾根の登山道に入りすぐに汗が滲んできたのでＴシャツ1枚になる。出発が遅かったので人は少ない。鎖場を過ぎ、樹林帯を出ると風があり心地いい。今まで前後しながら登ってきた家族連れは手間取っているのか、見えなくなった。暫く行くと先ほど抜かれた学生風の二人のうち一人が岩場で苦労しているので快調に抜いていく。

厳剛新道と合流後、しばらくするとふくらはぎが攣りはじめる。少し休み、おにぎりを食べ水分補給しておさまった。ゆっくり歩きだすが10分ほどするとまた攣ってきたので騙し騙し登り続けるが限界。水分を補給してしばらく休む。ようやく少し回復してきたので歩幅を小さくしてゆっくりと進む。何とか天神平からの尾根に辿り着く。雪渓を３０ｍほど横切ってすぐに肩の小屋の前へ。まだ攣り気味だったので、少し立ち止まってからゆっくりと歩きだす。

１２時ごろトマの耳の下に着いたが、人がいっぱいなのでそのまま通過しオキの耳に向かう。下りの部分では痛みはない。雲は遠くのほうに少し見えるだけで、素晴らしい眺めが広がる。オキの耳で数分休んでから帰路に着く。帰りはオキの耳に寄る。

１２時半ごろ下りはじめる。小屋の下の雪渓ではグリセードしながら下る。快調に下るが、20分ほどするとトレッキングシューズのビブラムが剥がれてきた。剥がれた部分が着地の時、地面に引っかかるので歩きにくい。熊穴沢避難小屋の前で小休止。この先どうしたものかと考える。ふくらはぎの疲労もあることだし、ロープウェイを使うことにする。

１時５０分ごろ天神平の駅到着。絶景を楽しみながら下る。車に戻ると、後部座席にカメラが転がっていた。

飯豊、山菜山行

金 井 秀 明

日　　程　　平成２８年６月３日～５日

パーティ　　遠藤、佐藤、内田、永井、水野、高橋（忠）、金井

毎年山菜山行の楽しげな様子を見てはうらやましいと思っていたので、今回参加できたのは本当にうれしいことです。

６月３日

夜、小見川役場に集合して出発。深夜、道の駅田沢なごみの郷にて仮眠。

６月４日

早朝、登山口を目指して進んでいくと、残雪をまとった飯豊連峰が見えてきて山登りの気分になってくる。大日杉小屋に到着、木造ログハウス風のきれいな小屋だ。寝袋や炊事道具を小屋に運びこんでからさっそく登山開始。めざすは地蔵岳。

はじめから緑深い森林の急登が続いて息がきれる。それでも道沿いにコシアブラやヤマウドが見つかると、収穫が楽しくて疲れを忘れる。ブユなどの刺す虫が多いかもといわれていたが、今回はそんなことはなくて安心して歩いていく。コース中唯一の水場、長之助清水に到着しゆっくり休憩。永井さんと内田さんは引き返す。

傾斜がゆるくなってくるとカタクリの群落が続き、やがて飯豊連峰の稜線歩きとなり頂上に到着。残雪をまとった飯豊本山から大嵓尾根の堂々とした山容が目前に広がり、気持ちのいい山頂だ。飯豊全体からみたらはじっこの地蔵岳だが、久しぶりの飯豊の頂上でうれしい。昼食をとって、水野さんたちはおいしそうにタバコを一服。喫煙派は肩身がせまい世の中だが、こんなときはうらやましい気もする。

下山中、佐藤さんが北斜面のちょっとした崩壊地でヤマウドの群落を発見。大収穫となり今夜の食事が楽しみだ。

大日杉小屋に帰りつくと、みんなさっそくイワナ釣りにくりだすが、釣りが不得手な私は夕飯の支度を手伝う。かなりの山菜の量なので内田さんも大変だ。

快適な小屋のテーブルに、山菜のてんぷら、おひたし、炒め物やイワナ料理、おいしそうな酒が並ぶ。ずっと集会のスライドで見ているだけだった場面が目の前にひろがり、夢のような晩餐だった。

６月５日

朝からイワナ釣りのあと、屋外のベンチにて食事。釣りたてのイワナを優先的にいただき感謝です。ゆうべだけでは食べきれなかった山菜がうれしい土産となる。

途中、白川温泉で風呂につかり、熱塩加納町のヒメサユリの大群落を見学、喜多方ラーメンを食べて帰路につく。

栗子　滑谷沢左俣

髙 橋　忠

日　　程　　平成２８年６月１７日～２０日

パーティ　　宮崎、遠藤、髙橋（忠）

毎年恒例化しつつある栗子の沢。沢登りと言うよりイワナ釣りが目的だが。三春ＰＡでテン泊仮眠。セブンイレブン飯坂インター店で朝食。１８日朝６時半前に東栗子トンネル駐車場に到着。例年、平日に行くので誰もいないのだが、天候の都合で土日になってしまったため、駐車場には多摩ナンバーの先客の車が止まっていた。どうやら釣り師のようだ。テン場が空いていることを祈りながら、６時３７分駐車場を後にする。駐車場の向かい側（登山口）の東北中央自動車道の工事もだいぶ進んだ。旧万世大路を通り、５０分足らずで二ツ小屋隧道に到着。トンネルの中の壁の崩落も昨年より大きくなり、いつトンネルが潰れてもおかしくない。トンネルから１０分位で、トンネル同様崩れそうな烏川橋に到着。ここで沢の支度を整える。

８時１０分入渓。ポイントポイントで釣りをしながら烏川を下っていく。後から若い男女のカップルがやってきた。栗子山に登ると言って、我々を追い越していった。うらやましい。また、中高年の地元の釣り師が一人やってきた。こちらは日帰りのようだ。先客の釣り師の影響か、一向に釣れない。今までこんなことは無かったのだが。途中、青ミズが沢山生えていたので、おかずにと青ミズを採った。結局、滑谷沢左俣の出合に着くまで、３人とも一匹も釣れなかった。いつものテン場に行ってみると、不安が現実に、先客の釣り師がタープを張ってある。４～５人のグループのようで、荷物を置いて釣りに出かけているみたいだ。仕方が無いので別のテン場を探す。運良く１００m位戻ったところに良いテン場が見つかった。テントを張って、薪を準備して、採ってきた青ミズを茹でておく。一服し終わって、１時頃からイワナ釣り開始。３人思い思いの場所へと向かう。私は、出合から少し烏川を下ったところで、粘ってみた。なかなか魚信がないが、粘った甲斐があり、ようやく少し型の良いのが１匹釣れた。これで後は遠藤さんと、宮崎さんに期待するしかないと私は諦め、ただただ同じ場所で糸を垂らしていた。やがて、下流から先客の釣り師が数人戻ってきた。いっぱい釣れたのかと見てみると、網に小さいのが２匹だけ。聞いてみると全然釣れないと言っていた。またしばらくして、宮崎さん、遠藤さんと戻ってきた。二人ともボウズだ。と言うことは、唯一釣れたのは、私の１匹だけ。（１匹だけでは、おかず困ったねと口では言ったが、内心、一人だけ釣れた優越感というか、うれしさで複雑な気持ちであった。）宮崎さんは、食事の準備をしていると、先にテン場に戻ってしまった。遠藤さんと二人で、テン場まで戻ると宮崎さんが、しょんぼりとした姿で、お湯などを沸かしている。こんな宮崎さんを見るのは初めてである。これは二人で何とかしな

ければと、「あと１時間位、頑張ってきます。」と、宮崎さんに告げ、少し上流の大きな滝壺のあるところまで出かけた。

２，３段になっている一番下の大きな釜のところで私が釣り始め、遠藤さんは上の段で釣り始める。型のいいイワナが数匹泳いでいるのが見える。これはしめたとばかりに糸を垂らすが、なかなか喰ってくれない。やっとのことで型の良いのが１匹釣れた。上にいる遠藤さんも釣れているみたいだ。なんとかもう１匹釣ろうと頑張っていると、滝の水が流れ落ちる真下に、短い流木のような物が見えた。針をかけてしまったらまずいなと思っていたところ、よく見ると、ひらひらと動いていて木ではなさそうだ。かといって魚にしては形がおかしい。さらによくよく見ると大きなイワナが、別のイワナを半分くわえ込んでいるではないか。くわえこんだイワナが大きくて、飲み込めないでいるらしい。初めて見る光景にビックリ。遠藤さんを大声で呼ぶ。やってきた遠藤さんもビックリ。

遠藤さんが、引っかけてしまえと言う。どうやって引っかけていいかわからず、竿を動かしていたら運良くかかった。遠藤さんが滝壺の先の浅瀬で、タモを持って待っているというので、引いていったら、２，３ｍで針が外れて、逃げられてしまった。悔しい。二人でがっかり。だが、しばらくするとまた同じ場所に何事もなかったかのようにいるではないか。今度はイワナをくわえていないので、「よし、今度は釣ってやる。」とばかりに、口先にエサを垂らす。何度も何度も繰り返すが、一向にエサを食わない。

隣で、遠藤さんが「引っかけろ！」と盛んに大声で叫ぶ。私は、「引っかけろと言われても、どうやって引っかけていいか、わかんないよ。下手に、ハリスなどが触れて逃げられたらどうするんだよ。」と心の中で怒りながら、適当に竿を振ってみたら、またも運良く針がかかった。また遠藤さんに浅瀬で待っていてもらい、慎重に引いていく。ところが、遠藤さんがタモで取り損ね、イワナは、深場の岩陰に逃げ込む。竿が弓なりにしなる。必死にこらえる。遠藤さんが、「もう一度引いてこい。」と言うが、重くて動かない。必死に、しばらくこらえていると、逆方向（浅瀬の方）に泳ぎだした。遠藤さんも責任を感じたのか、かなり深いところまで来ていたので、何とかタモで捕まえることが出来た。

その後はもう、二人で、写真を撮り合ったりで、大はしゃぎ。おまけに、最初に大イワナに咥えられていたイワナが、浮いているではないか。それも回収して、喜び勇んで宮崎さんの待つテン場に戻った。結局、本日の釣果は６匹。３匹は串焼きに。そして、４２

cmの大イワナは、宮崎さんと遠藤さんの二人がかりで皮をむき、刺身に。残りは唐揚げ。そして、青ミズと鯖の水煮の炒め物。１匹でどうしようと思っていたのが、大ご馳走だ。刺身は、思っていたより身が締まっていて、甘くとても美味しい。刺身をこんなにたらふく食べたのは初めてだ。お腹も満腹になり、早々と９時ちょっと過ぎには、テントの中に入って、深い眠りに就く。

１９日　今日は、滑谷沢左俣を釣りをしながら遡行し、裏見の滝先のテン場泊の行程である。朝食を済ませ、８時１０分テン場出発。先客の釣り師達が、朝食を食べていた。若い女の子を含む４人パーティーだ。今日はもう帰りだというので、我々は、ホットして左俣をのんびりと遡行する。ポイントポイントで、竿をだす。昨日と違って、皆、順調に釣れている。私は、テンカラでも釣ることが出来た。釣ったイワナを捌きながら、１５時４６分、テン場到着。早速、薪を集め夕食の準備。イワナの串焼き、今日は6匹。唐揚げに、途中で採ってきた赤ミズとコンビーフ＆ソーセージの炒め物etc。７時頃、宴会途中に、雨が降り出してきた。串焼きがまだ焼けていないけれど、仕方が無いのでテントに避難して、宴会再会。昨日の大イワナの話が、何度も何度も繰り返され、その度にみんなで大笑い。大いに盛り上がり、気がついてみたら、１２時を過ぎていた。こんなに遅くまで飲んでいたのは初めてだ。遠藤さんも、私も持ってきたウイスキーのボトルが空。宮崎さんも持ってきた日本酒が空になる。よく飲んだものだ。

最終日　目覚めたのは、７時過ぎ。飲み過ぎかと思ったが、皆すっきりとしている。大いに笑ったせいだろうか。

雨で途中までしか焼けなかったイワナを焼き直して、８時過ぎ、遅い朝食を食べる。朝食後、テン場の近くで１時間くらい釣りをする。

遠藤さんが、型のいいのを４匹。そのうちの１匹を計ってみると、なんと尺イワナではないか。大イワナを見ているので、尺物も小さく見える。宮崎さんは、やや小ぶりだが、６匹。私は、少し型のいいのを２匹。３日間、イワナ釣りを大いに楽しんだ。

１１時３６分。テン場を後にして、１２時４２分、大平橋に到着。沢靴から、登山靴に履き替えて、２，３歩歩き出したら、急に土砂降りの雨。急いでザックを下ろし、カッパを探す。「しまった。」カッパをザックの底の方に入れてしまった。取り出すのにもたもたしている内に、びしょ濡れになってしまった。イワナのたたりかと言いながら、歩き出す。３０分くらいで雨も止み、二ツ小屋トンネルで、カッパを脱ぎ休憩。１５時５分、駐車場到着。飯坂温泉で入浴して帰る。

ザックは重いが、のんびりと沢を歩き、釣り三昧。飲んで食べて、大満足である。来年もまた来れるかな。楽しみである。

滑川温泉と大滝沢

金 井 秀 明

日　　程　　平成２８年６月２５日～２６日
パーティ　　金井、他３名

東京住まいの親戚と、たまには息子を山に連れ出そうと話がまとまり、親子２組で出かけることになった。場所は吾妻連峰の前川大滝沢。ついでに前夜は大滝沢の目の前にある滑川温泉の湯治練に泊まることにした。そういうところに一度は泊まってみたかったので。

６月２５日

東北道の安達太良サービスエリアで合流し、滑川温泉へ向かう。途中で奥羽本線の峠駅に寄り名物の力餅を味わう。小雨まじりのなか滑川温泉に到着、二階の湯治練に案内される。古びた建物だが八畳間が二部屋あてがわれゆったり過ごせそうだ。自炊だが一人一泊二千円くらいですむのは魅力だ。さっそく温泉につかってから、廊下にある炊事場で夕飯作り。子供たちは夜中にも雨のなかを露天風呂に行ったりして楽しんでいた。

６月２６日

夜中に雨が降っていたが明け方には止み、青空も見えてきたので沢登りに出発。温泉から 100 メートルほど戻った橋から沢に降り遡行開始。最初の滝を越えると延々と続くナメが現れる。茶色がかった舗装道路のようなナメをひたひたと歩くのは気持ちがいい。私以外の３人は初めての沢だが、危なげなく楽しそうに歩いているのでひと安心。途中、滝を越えるのに二か所ほどザイルを使ったが、沢に慣れたパーティなら使わずに行けるだろう。

やがて目の前に滑川大滝がどーんと出現。高さ 120 メートルの大白布を思わせる名瀑だ。滝の手前でゆっくり休みたかったが、しぶきが流れてきて寒いのでじきに出発。滝の左手前のルンゼを登るが泥だらけで、先頭を行く息子はちょっと苦戦する。滝の落ち口の高さまで来てからトラバース。高度感がありすぎなのでザイルで確保しながら滝の上に降り立つ。

滝の上もきれいなナメと小滝が連続し、まったくいい眺めの続く沢だ。やがて左から流れ込むネコノ沢に入る。本来は本流をもっと進むのだが、今回は初心者連れなので短縮ルート。ネコノ沢を登山道が横切る地点まで登って沢は終了。登山道を一時間ほど下って滑川温泉に到着。息子用にネットで購入したフェルト地下足袋は、いつの間にかフェルトの靴底がなくなっていた。いちばん安物を買ったからか、と反省。

下山後はまた温泉にゆっくりつかり帰路につく。

雄国沼・杉田川

宮 崎　睦

日　　程　　平成２８年６月３０日～７月２日
パーティ　　高橋(忠)、宮崎

３０日

小見川役場に２０時集合で、よく宿泊に利用する三春ＰＡへ行くと、今回も泊まるトラックが数多く駐車しておりエンジン音がうるさい宿泊となりました。

１日

４時過ぎに起床し、磐梯高原ＩＣで降り、コンビニで朝食をとってから雄子沢登山口の駐車場に行くと、すでに１０台位が駐車しており、キスゲの季節は込み合う様です。

雄国沼休憩舎までの登山道は、沢から一段高い所に在りますが、降雨と人が多く歩くため、ぬかるんでいました。このルートは積雪期には今年も含めて数度行きましたが、無雪期に歩くのは初めてです。

雄国沼休憩舎で休息していると、後から数パーテイが登って来ました。ここから喜多方市の金杉峠までの間は整備された林道となり、許可車両なら入れる様で、途中にある沼の水位観測点の所には軽トラックが駐車していました。

金杉峠への分岐から雄国沼に下りていくと、ニッコウキスゲが見え、木道の散策路は一方通行になっています。

時間が早いためシャトルバスで金杉峠まで来る人も少ないので、木道の端に座って休むことができ、１時間余り付近の風景を楽しみました。

ニッコウキスゲの花の数は、毎年訪れる人によると、多い時の半分位とのことです

が見事です。ただ、満開から１週間ほど過ぎており、しぼんでしまった花も見られます。中々開花のピークに合わせるのは難しいので、これだけ開花していれば満足です。

雄国沼休憩舎で再び休んでから引き返しましたが、途中では会津若松の中学生の団体や、他の登山客も続々と登ってきており、駐車場に戻ると満車のため路上駐車の車両も３０台位有りました。

裏磐梯レークラインの途中に有る、沢登りの記録もある中津川渓谷を見学しましたが、ゴルジュの多い沢の様で、沢のガイドブックではレベルは３級以上で、私には遡行は無理な様でした。

それから、１０分位歩けば入渓できる箕輪スキー場南側の高森川の支流で、夕食のおかず用に岩魚を釣り、高橋さんが中型６匹、私は小型が５匹の釣果で夕食が豪華になりました。

スカイピアあだたらで入浴し、安達太良野営場に行くと、ライダーが一人いるのみで、後からも宿泊者は来ませんでした。

昨年も宿泊しましたが、二本松市の野営場で料金は無料です。今回は場内の雑草の刈り払いが今日行われた後で綺麗になっていました。

テントを設営し、炊事棟の所にビニールシートを敷いて食事をしました。昨年は蛍光灯のスイッチの場所が判らず、ランタン照明での食事でしたが、今回はライダーからスイッチの場所を教えてもらいましたので、明るい中で食事を取ることが事ができました。

岩魚は刺身になるようなサイズは無かったので、４匹をホイル焼き、７匹を唐揚げにして完食。

２日

朝食後に不動沢駐車場に移動し、赤不動を参拝し遊歩道を歩いて、遠藤ケ滝先から入渓です。

２年前天候が崩れそうなため、途中で引き返した地点付近までは簡単ですが、そこ

から先は小滝が多くあって変化に富み、歴史を感じさせる鍛造の古い鉄製梯子や鎖があり、昔は修行に使っていた雰囲気の有る沢でした。

滝は直登できずに巻で登った所も有り、巻のルートが悪いので１箇所は安全確保のためにザイルを出しました。

二俣から、遡行図は左俣を行く様になっていましたが、ＧＰＳで作成したルートは右俣でしたが、遡行図の通りに行くと終了点が見つからず、二俣まで引き返し、右俣へ行くと終了点の目印があり、そこから赤テープ沿いに廃道となった林道を行くと仙女平に到着しました。

２００７年に立原さんと遡行した時の記憶よりも、林道は廃道化が進んで、踏み跡が判らなくなってきている様に思いました。

帰宅してから、調べると今回使用したルート図は他のルート図とは違っており、間違って記入されていたようです・

ここから登山口の道路まで降り、駐車場までの舗装道路を登るのはわずか 1.2K程の登りですが、暑くて辛い登りでバテバテになりやっと駐車場に到着。

大玉村の村営の温泉で入浴し、本宮ＩＣから高速に乗り帰路に就いたが、この日は全国的に気温が今年最高を記録した暑い日で、沢の中では暑さを感じませんでしたが、沢を出てからの歩きは、身体中から汗が噴き出していました。

１日	雄子沢登山口	６：００
	雄国沼休憩舎	７：１２～７：３０
	雄国沼	７：５０～９：００
	雄国沼休憩舎	９：１５～９：３０
	雄子沢登山口	１０：３０
２日	不動沢駐車場	７：１５
	遠藤ケ滝先入渓点	８：００～８：１０
	７Mはしご有滝下	９：２５～９：４０
	２段４M下	１０：２５～１０：４０
	二俣	１０：５５
	反転	１１：３０
	二俣	１２::００～１２：１５
	遡行終了点	１３：００～１３：１５
	仙女平	１３：５０～１４：１０
	県民の森の登山口	１５：２５
	不動沢駐車場	１５：４０

白 根 三 山

バーチカル

日　　程　　平成２８年８月２日～５日
パーティ　　バーチカル

自己紹介

今年入会しましたバーチカルです。よろしくお願い致します。現在６２才、５５歳のとき山に興味を抱き登山を始める。しばらくは日帰りツアーに参加していたのですが、楽しく感じられたのは初めの頃で次第に感動も薄れて行く。鎖場を通過した時の高揚感からクライミングに入門して、フェイス・クラック・スラブ異なる登攀技術の魅力に取りつかれる。ロープワーク、支点構築を高めること、腕や足をプルプルさせながら苦痛に耐えるのが好きだ。爪を剥がしても怪我をしても懲りない変人です。

６０才位から体力の衰えと同時に歩きの大切さを再認識する。２年前槍ヶ岳から北穂高岳へ、昨年燕岳から蝶ヶ岳へ流行りのライト&ファーストである。参考タイムを３割短縮する事が出来た。でも小屋泊が好きになれなかった。ならば今年はテント泊、重い荷物でガッツリ歩いてみよう。標高第２の北岳がいい、テント泊だから白峰三山だ、どこまで行けるか分からないが決定！南アルプスも初めてだし・・・装備・計画を立てているとあのプルプル感が甦ってきた。

白峰三山：南アルプス国立公園内の赤石山脈にある北岳（3193m）間の岳（3190m）農鳥岳（3026m）の三山の総称。北岳と間の岳の間には中白根山（3055m）、間の岳と農鳥岳の間には西農鳥岳（3051m）がある。ウィキペディアより抜粋。

８月２日、新宿発22:00の広河原行き南アルプス直通バスに乗る。平日のためか空席もあり、２人掛けシートを１人で独占できた。途中、時間調整のため日帰り温泉の大広間で仮眠する。足を伸ばしてゆっくり休むことが出来た。

８月３日、ここから路線バスに乗り換え5:00出発。時間が早かったのか、夜叉神峠でゲート待ちの乗り合いタクシーやバスが数台並んでいた。5:30オープン、6:00広河原到着。

インフォメーションセンターで装備１２kg に水２ℓを補給し、6:30出発する。
吊橋を渡り小屋を過ぎると樹林帯の急登になる。さすがに長い、どこまで行っても急登と梯子が続く。他の登山者とデッドヒートを繰り返し白根御池小屋に9:14到着。（なんとも無意味な事をしてしまいました。今回の目的はガッツリ歩くこと、すっかり忘れていました）ベンチがあり登山客が多くくつろいでいる。家から持ってきた昆布部

長おにぎりをたいらげ、南アルプスの天然水で喉を潤す。

9:40出発、草スベリは下から見上げると緩やかに見えるのだが、ここもきびしい。槍ヶ岳に行った時の水俣乗越を思い出す。高山の花々に慰められながらもダケカンバの急登は続き、右俣コース分岐あたりから小雨が降り出す。気持ちだけ急いで、11:56小太郎尾根分岐到着。

ここからは尾根歩き。絶景を眺めながらの予定が・・・残念。高校生の山岳部が合宿で来ていたので合流、先生との会話を楽しみながら12:56肩の小屋到着。同じヘルメットを被り今風でない彼らの無骨な姿が好印象であったが、ここでお別れ。

先に進むと誰もいなくなってしまった。単独行で寂しいなか、13:50頂上に着く。山荘へと下り、しばらくすると左俣コースからの人影が見えて来た。小屋の屋根が現れ、14:40北岳山荘に到着。予定では15:00着だったのでほぼ計画通りであった。小屋前に水場もあり一安心。テントを設営し「よーし、ビールだ！」厳しかった一日が終わり、フリーズドライ米とスープで質素な夕食を堪能する。

８月４日、カップ麺とドライ米で朝食。薄明るくなってくると、雲海の彼方に見える富士山がきれい、で多くの人がカメラに収めている。今日は空が澄んでいてうれしい予感。雨で濡れたテントを撤収し、5:35出発。

間の岳までのピストンで下山する人が多く、みんな空身で歩いている。6:16中白根山。近くに千丈・甲斐駒、遠くに鳳凰三山が見える。これが尾根歩きの醍醐味だ、何度も北岳を振り返り昨日の分も取り返す。7:25間の岳。山頂では英語、中国語、韓国語が飛び交う。昨日の山小屋もこんな感じか・・？

先ほどの賑やかさはどこかに、農鳥方面はすっかり静かになってしまった。8:36農鳥山荘。ネットで有名な主が居るらしい。ヘルメットに作業服で近づいて来る人がいる。直感的にピンときた。晴れもつかの間、ガスが尾根に吹き上げてくる。9:50西農鳥岳、途中少し迷ったが10:45農鳥岳到着。

山行前、宮崎さんから「大門沢下降点の指導標を見てきてほしい」との要請がありました。僕は知らなかったのですが、道々知り合った人に話すと「あの道標ですか、みなさん助かっていますよ」など役立っている様子でした。11:28黄色い道標着。かつ

て若い会員の遭難があったらしい。御両親と銀嶺山岳会が登山者の安全を願い、建てられたようだ。多くを語らない文面に胸が熱くなり、鐘を1回鳴らして鎮魂の祈りを捧げる。

大門沢の下りはスゴイの一言。事故が多いとの事だが頷ける。冬山並みに気を使い、14:30無事小屋着。受付にいた主らしい人に挨拶すると、約10年前のリペイント時の事を説明してくれた。ポツリポツリから急な大雨に、ずぶ濡れになりながらテント設営。本日終了。

８月５日、大門沢小屋4:55発。昨日に続き、びっくりするような急坂を下りる。沢を何度か渡るが、どれも不安定な丸太橋で、フィックスしてあるロープは役に立ちそうもない。平坦な場所では昨日の大雨で登山道が川になっていて、道案内のテープを頼りに全く気の抜けない下山道であった。7:31第一発電所到着。

ときどき現れる膝痛も無く、希望通りにガッツリ山行が楽しめた。いつもの事だが食事がマズイ～！美味しい物は重いし量も増える。今後の課題です。

雨 飾 山

高 橋 恵 美 子

日　　程　　平成２８年８月５日～８日

パーティ　　水野、宮崎、遠藤、高橋（忠）、内田、佐久間、高橋（恵）

山田旅館の前でバスを降り、登山口までの道のりを一人歩いたのは、もう３０年も前の事。その名前の美しさに魅かれ、夜行列車ではるばる出かけたのでした。車で通ればわずかな道のりでも、歩けばそれなりの時間がかかる。歩くのが当たり前の頃とは言え、苦とも思わなかった若かりし頃が懐かしい。

小谷温泉奥の雨飾高原キャンプ場にベースのテントを張る。

７日朝６時半、この日はテントキーパーの内田さんに見送られ出発。登山口から緩やかに下り平坦な道を進むと湿地帯に出る。木道の終点に距離を示す「２/１１」の道標。ここから左の尾根に取りつく。この先はずっと上り、急登だ。「１１/１１」が頂上、数字が増えるのを励みにひたすら登る。風は無く、暑い！暑い！

周囲はブナの林、登るにつれ大木が多くなる。いつの季節もブナは美しい。ブナ平を過ぎ、平坦な道に変わると荒菅沢が見下ろせる見晴台に着く。緑の海に浮かぶ白い小さな島のようにも見える。８時半、広い河原の荒菅沢に出た。青空をバックに、布団菱の岸壁が格好いい。風も通り清々してとても気持ちが良い。冷たい水で顔を洗い、喉を潤し、生き返る。それにしても３０年前とは言え、こんな印象的な場所の記憶が全く無いとはどうした事か？　残っている記憶と言えば、雨飾山荘に下る道が転げ落ちるような急だった事と、笹平で「山渓」の編集部に会った事くらいだ。痴呆症かな？最近、忘れ方が異常な気がする。どうすりゃいい？

荒菅沢からまた急な樹林帯に入る。暑い！　我慢我慢と言い聞かせて歩を進める。樹林を抜けると眺めが良くなり、気がまぎれる。駐車場や管理棟も良く見える。登山道は岩場やハシゴが出てきて、益々しんどくなる。水野さんが珍しくバテている。太陽を背にしているので、つばのないキャッではまともに後頭部を照らされる。熱中症にならなければいいけど。が、人の事どころではない

やっとの思いで笹平の一角に出た、大休止。忠さんお手製の塩の効いたきゅうりの一本漬けがとても美味い。ガスが上がってきて頂上は見え隠れ、やっぱりもっと早い時間に着かないとダメか。でもお陰でちょっとしのぎやすくなりました。

ここから先、頂上直下までは笹の中の緩やかな道。ハクサンフウロ、ハクサンシャジン、シモツケソウ、ヨツバシオガマ等々、周囲は様々な花々がいっぱい。一番の見所だ。荒菅沢源頭部から見下ろす布団菱の岸壁は、ツルツルに磨かれた巨大なスベリ台のようだ。雨が降ったらどうなるんだろう？　斜面一帯が花畑になっていて、とても絵になる所でもある。

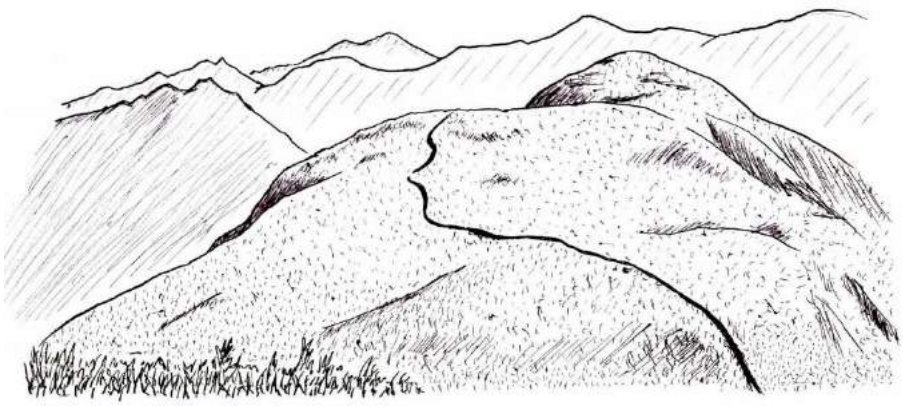
頂上手前の急坂をジグザクに登って、まずは北峰へ。１１：４２やっと南峰に到着しました。結構きつかったなぁ。暑くて参りました。天気が良くてもこの時間になるとガスってしまって展望は利かない。残念！　けれど『乙女の横顔』はハッキリわかる。なるほどここから笹平を見下ろすと、登山道のかたちは『乙女の横顔』そのものだ。

すでに他の人の姿は無い。1時間ほど休憩して往路を戻り、4時バテバテながらも無事下山。大急ぎで雨飾荘に向かい、温泉で汗を流しさっぱりする。キンキンに冷えた生ビール（キャンプ場管理棟の売店にジョッキ生有ります）を飲みながら、快適なキャンプ場で１日を振り返る贅沢なひとときを過ごしたのでした。

久しぶりに参加した今年の夏山合宿は、天候に恵まれ・・・過ぎて、暑くてバテバテでしたが、夏山らしい合宿になったような気がします。

コースタイム

キャンプ場６：３０　―　荒菅沢８：３０　―　笹平１０：４３　―
南峰１１：４２　―　キャンプ場１６：００



乙女の横顔

飯豊・大日杉小屋から

内 田 章 子

日　　程　　平成２８年９月２８日～３０日
パーティ　　水野、佐藤、遠藤、宮崎、内田

夏山合宿でのこと以来、暑さが和らぎ、虫も出なくなるくらいの寒さを感じるようになるまでは山に行くつもりはなかった。　「禁漁前の９月中に釣りに行こう」と相談する人たちの「大日杉小屋・・・」という声を耳にするまでは。

地蔵岳から飯豊連峰への登山口の起点であり、深い杉木立に囲まれて建つ大日杉小屋は、私の中ではとても好きな山小屋のひとつである。三角屋根の立派な小屋と明るく開けた広場など、山に登らなくても沢に入らなくても小屋周辺で楽しみをいろいろ創り出すことのできる小屋なのである。
何より魅力的なのは、飯豊連峰への登山をする人たちは、この小屋に宿泊することは、ほとんどなく貸切状態になることである。

いつもは途中のSAか、道の駅で仮眠するが、今回はまっすぐ大日杉小屋まで入ることになり、２９日午前２時頃到着。　６月の山菜山行に続き今年２度目である。
荷物は明るくなってからとし、シュラフだけ持って３階の寝所のそれぞれ好きな場所でさっそく就寝。

登山抜きの、目的は釣りだけの山行？なので何時に起きなければ、ということもなく広々した寝所でシュラフに包まってぐっすり眠ってしまった。

外の明るさと２階の物音で目を覚まし、下の広間に行く。部屋の中は６月の時とは違い、真ん中に１０人以上も座れそうな大きいテーブルと椅子、ストーブの横には前からあった低いテーブルもセットされ、この前、２階も３階も階段もカメムシだらけだった小屋のどこもかしこもピカピカに清掃されていた。

どんな山でも登る朝は緊張感があるものだが、今回はなんとなくのんびりしてしまう。小屋のそばまで車で入れると思うと、あれもこれもと１泊なのについつい大荷物になってしまった。２台の車から何度も往復をして荷物を運び込み、ゆっくりお茶を飲み、朝ごはんを食べ、やっと釣りの仕度にかかる。

釣りは晴天より良しとされる小雨模様の中、今年最後となるイワナ釣りにみんな張りきって出掛ける。大物の釣果を期待しながら沢に入る森の入り口まで見送る。

一人になると余計に広く感じられる部屋の中で、運び込んだ大荷物を夜の宴会を考えながら使い勝手の良いように整理し、まずはゆっくりコーヒータイムだ。
みんなが帰ってくるまでは時間もたっぷりある。読みたい本も持ってきているし、そろそろ始めなくてはならない会報の原稿を考えても良し・・・

外は雨が降っているし、釣りはしなくてもいいかな・・・など、思いをめぐらす。
　ときおり、この雨の中を飯豊連峰目指して登山道に入って行く人たちが小屋の前を通り過ぎて行く。その人たちを見ていると部屋の中でぬくぬくしていることに少し気が咎める。
「釣りの仕度もしてきたことだし」と雨具を着、長靴を履いて広場に降りる。小屋のすぐ前の、白川からの支流の縁を、釣り場を探しながら歩いてみるが、橋の上からがいちばん良さそうなので糸を垂らしてみる。と、５分もしないうちに竿を通してピピっと手先に感じるものが。　しばらく味わっていないこの感触に「岩に引っ掛けたかな」と様子を見ながら少し間を置くと、今度は確かにググっと引く。まさかと思いながら頃合いをみて竿を上げると、何とまぁ、イワナがついているではないか。
橋の上でバタバタ飛び跳ねているイワナを見て我ながら驚いてしまった。「釣れちゃったよ」　気がついたら一人で声を出して笑っていた。　嬉しい！本当に嬉しかった。
山では６月のことといい、夏山のことといいあまり良いことがなかったから・・・
欲をかいてもう１匹と、同じ所で竿を出していると車が１台着き、腕章を付けた巡視員の小父さん達４、５人が近寄ってきた。「釣りをしているの？」「ええ」「釣れた？」「１匹だけ」「どれどれ？」と橋の袂にぶらさげて置いた袋を開けて「おゝすごいね、あんたさんが釣ったのかね」「ええ、そうですよ」と言うと「それにしても、なんとも運の悪いイワナだね、ワッハッハッハ」と、みんなで笑う。
私ごときに釣られたイワナは運が悪い？確かにそうかも。遊び半分で下ろした竿にかかってしまったのだから。
その後もしばらく粘ったが、冷えてきたので早々に小屋の中へ入る。みんなは１日中釣りをすると言って出掛けたので、まだまだ当分は帰っては来ないだろう。
３階のベランダから遠藤さんが置いていってくれた、鳥の鳴き声のする笛を鳴らしてみたが、雨のためか鳥も出ては来ない。最初にここに来た時にさえずっていた色がきれいで姿のいい、黄セキレイを思い出す。
ベランダからそぼ降る小雨をぼぉゝと眺めていると、ときおり吹く風に、ほんの少し色付いた木の葉がくるくる舞いながら落ちる。聞こえるのは幽かな風の音と沢音だけ。あゝ、いいなー、この静けさと、このゆったり感・・・
　あぐら椅子にだらーっと座って本を読んだり、会報の原稿を考えたりしていると、思っていたよりずっと早い１時半頃にみんなが帰って来た。人数分のイワナは釣れたようだったが、上にはあがらず玄関先のテーブルで一服し、遠藤さんを除いて３人はまた出掛けて行った。残った火番の遠藤さんが早速、薪ストーブに火を入れてくれる。薪の燃える音とストーブの赤い炎がよりいっそう暖かく感じさせてくれる。
６月に来た時、私の具合が悪くなったのは「１階の炊事場の水にあたったのかも知れないよ」とペットボトルや水筒をたくさん抱えて沢の水を汲んできてくれた。

２度目の釣りを楽しんだみんなも、４時前には帰ってきて揃ったが、宴会には少し早いので９月生まれの水野さんの誕生祝いをする。ささやかなケーキには似合わないほどの大きな６５歳のローソクを立てて。
陽が落ちてくるころからは、宮崎さんが作ったイワナの唐揚げ、南蛮漬け、遠藤さんお得意のミズと鯖缶の炒めもの、佐藤さんが採ってくれた真っ白なブナハリタケも炒め、焼肉など、いつもの如く宴会の始まりである。
翌３０日、昨日とはうって変わって快晴。雨の中を登って行った人達は、今日は素晴らしい尾根歩きを楽しんでいることだろう。
それぞれが好きなだけ寝て（早起き癖の人たちを除いて）ストーブのそばでゆっくり朝食を摂る。
帰る途中の林道は、今年最後の漁を求める人たちの車がだいぶ入っている。
ここに来た時に行くいつもの温泉に入り、喜多方のラーメンではなくお蕎麦を食べ、重要文化財の会津大仏と、蔵の街、喜多方のシンボルと云われる甲斐本家を見学して帰途につく。

好きな避難小屋で、思い描いていたとおりの過ごし方が出来、おまけにイワナまで釣れてしまい、リフレッシュ出来た旅でした。

秋田駒ケ岳・姫神山

水 野 照 雄

日　　程　　平成２８年１０月１３日～１６日

パーティ　　宮崎、遠藤、高橋（忠）、佐藤、佐久間、水野

例年ならバス山行の時期に当たり、会の山行は出来なかったが、バス山行も終わり、久しぶりにゆっくりと秋山を楽しむ事ができる。今年は秋田、岩手へ出かけてなかったので、東北の秋を楽しむ計画にした。最初の予定では7日から10日で計画したが、この間の天気予報があまりに悪かった為、急遽延期することになった。久しぶりに参加予定だった、原田さん、井上さんが行けなくなってしまい申し訳なかった。

13日は長者原SAで仮眠し、14日6：00盛岡へ向かう、盛岡ICをおり、秋田駒方面に向かうが、天気予報通り、秋田方面は黒い雲に覆われている。盛岡より太平洋側は晴れ渡っている。相談した結果、今日の予定を乳頭山から姫神山に変更することになった。コンビニで朝食をとり、姫神山へ向かう。

一本杉登山口からピストンの予定で歩き始める。銘木の一本杉を過ぎると、階段状の登りがあり、懺悔坂へと続く、下りてくるランナーのおじいちゃんと行き会う。毎日、頂上を往復しているとの事で、「5000回を達成して新聞に載ったんだよ」と、うれしそうに話してくれた。

5合目を過ぎたあたりから木々の色付きがよくなり、秋山らしくなる。頂上直下の所で道は二手に分かれる、前に来た時は右手に行き、大岩が積み重なった道で苦労したので、佐久間さん、忠さんと私は左手の道を行くが、こちらにも大岩を越える箇所があり、佐久間さんが苦労している、先を行く若者が振り返って心配そうに見ていたので、「手を貸してあげてください」と声をかける。差し出された手を握り登る佐久間さんの嬉しそうな顔・・・、その後も頂上まで若者は佐久間さんをエスコートしてくれました。私は遠慮して少し間をあけて登ったのでした。

頂上からの景色は申し分なく、岩手山を中心に望む、広々した風景を楽しみながら、のんびりとしたコーヒータイムを過ごす。下山路はこわ坂登山口への道を選択する。遠藤さん曰く、「キノコの匂いがする」、キノコは採れなかったが、樹林は登った道より雰囲気がよく、歩きやすい道で正解であった。

田沢湖へ向かう道で県境の峠を越えるころから雨になり、雨の中テントを張るのは嫌だなと思いつつ、途中にある水沢温泉で汗を流す。シルバー感謝デイというイベントの日にあたり、福引抽選や餅つきが行われていた。抽選では忠さんが餃子20個を引き当て、風呂を出るとつきたての餅のサービス（おかわり自由）もあり、思わぬ恩恵を受けてしまった。

幸い風呂に入っている間に雨はやみ、キャンプ場へ向かう頃には陽も差してきた。夕日が湖面に映える田沢湖を見ながら縄文の森オートキャンプ場に到着。テント、タープを設営して一段落である。よく整備されたキャンプ場でAC電源もあり、宮崎さんが用意してくれた

照明を点けると快適なキャンプサイトが完成した。田沢湖を見下ろすロケーションも良い。
　日が暮れると、かなり冷え込む、私は防寒対策を十分してきたので、あまり感じなかったが、メンバーの中には寒さが応えた人もおり、明日も早いので、早めにテントに入る。

15日　5時起床、7時キャンプ場出発、早朝の田沢湖がきれいだったので、ちょっと寄り道して浜に降り、湖面から朝霧が湧く景色を楽しみ、国見温泉の登山口へ向かう。駐車場にはすでに10台ほどの車があり、準備している時にも何台か入ってきた、人気のコースなのだろう。周りの森はきれいに紅葉している。
　去年も泊まった森山荘ロッジの横が登り口である。黄色くなったブナの森を登って横長根へ、ここからは登るにつれて展望が開け、第二展望台に到着する。
　このコースは、遠藤さんと私は3回目であるが、この辺りから見る景色は何回来ても素晴らしいと思う。青空の下、盛岡方面は雲海の下に隠れ、右に振ってくると和賀岳を含む奥羽山脈の山々、田沢湖の湖面がひかり、手前には紅葉した雄大なカルデラ原が広がる、そして秋田駒の女岳、男岳、ムーミン谷と続く、火山特有の山岳風景、来るたびに違う、色調にも感激である。
　谷へ降りる道は火山特有の黒いザレ地をトラバース気味に下っていく、（この辺りはコマクサの群生地である）ムーミン谷におりきると、谷の真ん中に木道が続く、花の季節には両側にお花畑が続く、特にチングルマの群生地として有名である。今は少し寂しい風景だが見上げる山腹の草が秋の雰囲気を演出してくれている。谷の行き止まりで道は二手に分かれる。左手の道をとるが、この頃から、山にガスがかかりだし、ルートが分かりにくくなる。
　遠藤さんの記憶を頼りに男岳へ続く尾根に出る。ここから頂上までがつらい登りとなった。

前に来た時は、内田さんの後ろを歩けばよかったが、今回のメンバーでは、私が最弱者、ようやくの思いで皆について登る、頂上に出て「やれやれ」である。

ガスに包まれた頂上だったが、ガスの流れは速く、一気に青空がのぞいて周りが見渡せるようになったり、またガスに飲み込まれたりの繰り返しであった。記念写真を撮り、風のない所でお茶にする。

阿弥陀池の避難小屋へ降りて、ここにザックを置いて男女岳（おなめだけ）を往復する事になったが、私は荷物番と称して遠慮した。（体力温存）全員30分程で戻ってきた。横岳へ登り返し,大焼砂を下る。この辺りは谷を抜けてくる風の通り道になっており、強い北風が吹き抜けていた。冷たい風で耳が痛くなってくる、北の地に冬が迫っているのを感じさせる風であった

15：45に車に戻り、水沢温泉で汗を流し、夕暮れのキャンプ場へ戻る。忠さんが用意してくれた白玉ぜんざいをいただき、人心地、そして今回の食当をしてくれた佐藤さん、遠藤さん、忠さんが用意してくれた鍋を囲み、キャンプサイトの夜を楽しむ。天には満月が輝いていた。

16日　6時起床、今日は佐藤さんの誕生日、佐久間さんが用意してくれたケーキで誕生祝いをして、お裾わけのケーキでコーヒーを飲み、田沢湖畔まで朝の散歩を楽しむ、帰りにはキャンプ場で栗拾いをしてキャンプサイトに戻る。

今日の予定は特に決めてなかったが、リクエストが多かった辰子像を見ながら、田沢湖を1周し、盛岡市内にある宮沢賢治・石川啄木青春館を見学、盛岡城跡の公園を散歩して、わんこそばの有名店「東屋」で昼食を食べ帰路に就く。

のんびりと秋の東北を味わえた、楽しい山旅でした。

同行の皆様、ありがとうございました。

コースタイム

１４日

一本杉登山口（９：００）ー姫神山山頂　（１１：００～１１：４０）

ー車道出合（１３：０７）ー一本杉登山口（１３：２８）

１５日

国見温泉（７：５５）ー横長尾根出合（９：１０）

ー大焼砂分岐（１０：１０）ー男岳（１１：５０～１２：３０）

ー避難小屋（１３：００）ー男女岳（１３：１１～１３：２０）

ー避難小屋（１３：３０～１３：３５）

ー横長尾根出合（１４：５０～１５：００）ー　国見温泉（１５：４５）

今はなつかしいが冷や汗ものの山

小 山 田 泰 幸

日　　程　　1986 年（回想）

2016 年。今年は標高 500m超の山に登ったことが２度あるきり。どんな体験にも語る価値はあるでしょうか。山道を歩くことが、自分の心をあっためる熱源になっていることは確かですが、語った物語が面白いかどうかは別問題。どんな素材でも面白く書けたらいいけど、最近自分の中のサービス精神がじわじわ減退しているのを感じます。

今年は登山不適な天気が多かったですね。シルバーウィークに一縷の望みを託していましたが、２日つながった自由日が取れない。あんまり職場の「部活動」のことを恨んでいると、性格が悪くなってしまいそうだから、今年は「でくのぼう」になってぼんやりしています。

こんな自分もページの割り当てをいただきました。私の「登山の始まり」について語ります。「おくちよごし」の誌面版のようなものですが。

始まりは、「至仏山」だったようです。いま考えると、なんでいきなり2,000m登山なのか、当時の自分は何も知らなかったんだと思います。1986年（４月にチェルノブイリ事故があった年です）、６月に結婚した私たちは、夏、どこかにでかけたくてうずうずしています。どこ行きたい？……尾瀬！……どんなふうに行こうかな。……当時は鳩待峠まで自家用車で入れました。

山の鼻までのピストンではつまらないと思った私たちは、鳩待から至仏山経由で山の鼻へ下ったのです。至仏山から湿原へ下る道が通行止めになったのは、もっと後のこと。実はこの行程を、スニーカーとスポーツバッグで、やっちゃったんです。計画の過程で、登山経験のある職場の同僚に必要な装備を聞いたら、普通の運動靴で行けるよ、ということだったので、昭文社のあの登山地図一枚だけが登山ぽい持ち物で、今の自分が当時の自分たちを見たらまちがいなく顰蹙の視線を向けたであろういでたちです。

至仏山頂から山の鼻へ直接下る道。幸い、先行者がいました。ただ立っているだけのように見えて、着実に高度を下げているその方のペース配分が、30年後の今でも印象に残っています。成り行きまかせに下っていたら、足を傷めていたかもしれません。宿泊したのは、山の鼻小屋だったようです。入浴できる山小屋はごく少数だということは、その当時は思いもしませんでした。翌日は尾瀬ヶ原を心ゆくまで歩き尽くしました。木道なら登山靴でないハンデは、ないも同然。調子に乗って三条ノ滝まで行ってしまったようですが、記憶が混線している可能性もあります。８月下旬。たまたま天気もよく、チリチリに日焼けして帰ってきました。

第１００回　春の市民バス山行

シャクナゲと新緑の天城山

佐 藤　實

日　　程　平成２８年５月２０日～５月２１日

パーティ　水野、宮崎、遠藤、高橋（忠）、高橋（恵）、内田、宮内、佐藤、高橋（充）、一般参加２０名

バスが久しぶりで満席になりました。天城山が百名山故か、たまたま偶然か、１００回記念、最終と銘を打ったせいか。知る由もなく、いつもと何も変わらない今回の始まりです。銚子を出る頃は高曇りであったが箱根も変わらずでした。頭だけの富士山が見える。芦ノ湖畔に寄り、皆好みの店に別れて、ゆっくりと昼食フリータイムを過ごしました。箱根から山の中の伊豆スカイラインを走り、今日のメインになる大室山に向かう。大室山は高さ５８０ｍ。きれいな円錐形の休火山で国指定天然記念物との事。ツアー客宜しく、リフトに乗って上に行くと風が冷たく寒い。伊豆や大島など、眺望は抜群で晴れたら最高と思えど、富士は雲の中。何よりなのは緑一色のスリバチ噴火口の美しいことでした。

今日の宿 15 時 20 分着、潮風館は埼玉県の施設だそうで大きくてきれい。眺望も抜群で、会計と宿泊関係を一手に引き受けていた内田さんの苦労の賜物か、と感心するばかりです。

２１日　４時３０分　明るくなりかけた頃バスに乗り、朝食の弁当を車内で食べながら登山口に向かう。その道すがら朝の光がカーブごとに木立の間から射して、まぶしくも好天に感謝でありました。５時１５分天城縦走路口から、２班編成パーテイで歩き出す。杉林のなだらかな下りから始まり、足元にはコケむした岩。大きなアセビや新緑の中にアマギツツジが彩りをそえる道は、隣の天城高原ゴルフ場の続きかと思える所で、少しの登りで万二郎岳に着く。展望は不要な位のミツバや、アマギツツジに囲まれて小休止となる。ここで内田さん他１名下山予定となります。

登山道の多くは明るい樹林の中を進むようになり、アセビのトンネルやアマギツツジの下を歩けば、ゴロゴロ岩の下りも木の根も「良し」になる快適なコースが続く。石楠立周辺は天城シャクナゲ群生地と呼ばれるも、木があるものの花が少なかった。外れ年か、花期が過ぎたのか？。東北のブナより

樹皮が黒い大きなブナ林を抜けて、ツツジ公園かと思える程の万三郎岳に９時４０分着。ホント、見事なものです。

縦走路分岐から又ブナ林を愛でて下り、杉林の四辻に出る。朝来たゆるやかな登りを１０分で駐車場に帰って来ました。１３時２６分着。　暮らしの中で、長い間市民バス山行を楽しみにして来てくれた方々。最近参加された皆さんも全員満足の思いが感じられた一時でありました。バスに乗り、名前も嬉しい「百笑の湯」で入浴と少し遅い昼食を済ませて帰途に就いた。

市民バス山行は、銀嶺の先人達が残した絶妙のお祭り行事であったように思う。五十余年の歳月をかけて、１００回目を迎え、終わる。自分の中では、重い緞帳が、何かを遮るようにゆっくり下りて行きました。

←万二郎岳

万三郎岳→

市民バス山行を顧みて

古 川 進 一

昭和37年の秋、第１回の大菩薩峠の山行からスタートして、今年、平成28年に至るまで54年間で100回の山行になりました。

第１回は、バス３台で146名参加の大盛況の山行でした。

最初は年１回の山行で、前日の夕方に出発し、車中で仮眠し早朝歩きだしていました。この行動パターンでいくとよく眠れない方もあり、またバス代も２日分になってしまうので、早朝出発の１泊２日としました。結果はとても良好で、山行で体調を崩す人も少なくなりました。そして、参加者からの希望で春と秋の年２回の山行を行うことになりました。

当初は関東周辺の近い山でしたが、高速道路の発達で、北は東北の栗駒山、西では岐阜の恵那山へも行きました。

50回の記念山行は２泊３日で南アルプスの甲斐駒・仙丈岳、70回記念は北アルプスの鹿島槍ヶ岳へ行きました。全体を通してみると、谷川岳、人気のある尾瀬の山々、そして東北会津の山が多かったです。他にも記録を見ると、秩父の山や八ヶ岳周辺のほとんどの山へ行っています。

天気の関係で予定通り歩けなかった山行も何回かありましたが、大きな怪我もなく、安全登山には十分注意してやってきました。

ただ一度だけ、朝日連峰「祝瓶山」での山行で一般参加者の方が持病の心臓病を起こし、地元の防災ヘリコプターのお世話になったことがありました。対応が早かったので一命は取り留めましたが、私としては一生忘れることはできないことでした。

一般参加者も延人数で正確ではありませんが3000人は超えていると思いますので、少しは地元に貢献してきたと思います。

今回、節目の100回で終わってしまうのが、とても残念です。

私が良かった山、印象に残った山をあげてみると、記念山行の仙丈岳の登りで見た朝焼けした甲斐駒ヶ岳、70回の鹿島槍ヶ岳の下りで見た稜線を越す霧の流れ、冷小屋上部からの日没時の雲海上の剣岳のシルエット、そして春の山行では、八ヶ岳本沢温泉に泊まったときに入った日本最高所の露天風呂、甲武信岳への山行で見た十文字峠でのシャクナゲ、秋の山行では東北の舟形山と月山の紅葉、本名御神楽岳へ行ったときの湯倉温泉「鶴亀荘」の創作料理が思い出に残ります。

最後に、永きに渡って参加してくれた方々と、役員として一般参加者の面倒をみていただいた会員の方々に厚く御礼申し上げます。

故人になってしまいましたが、計画・立案・下見・プリント作成等に大変お世話になった小林道春さんには、特に御礼申し上げます。

バス山行への想い

水 野 照 雄

７年前にバス山行の担当になり、最初に思った事は、会員皆が参加するバス山行にしていかないと維持するのは難しいのではないかという事でした。幸い仲間の賛同を得ることが出来て、何とか続けることが出来ました。

お客様の平均年齢は年々上がり、一人また一人と去っていくのは寂しい思いがしましたが、新たな人達の参加もあり、一定の人数で山行を続けることが出来ました。一番悩んだのは山の選定です。最初の数回はある程度知名度のある山で適当な所がないか探しましたが、平均年齢が60代後半となり、無理なく楽しめる山で春は新緑の森､秋は紅葉の森を歩くコースであれば良いと考えるようになりました。毎回、行き先が決まり、宿の手配が済むとほっとしたものです。実際には内田さん、高橋恵美子さんが相談して手配してくれ、私は結果を聞いてお礼をいうだけなのですが、責任者としては気に病んでいました。

山行が近づくと天気が心配でなりません。幸い私の担当した山行では尾瀬と根子岳以外は天気に恵まれ、幸運だったと思います。

協力してくれた会員の方々も普段の山行とは違うけれど、続けるにつれ、お客様とも顔なじみになり、それなりに楽しんでもらえたのではないかと思っています。私達はお客様をお世話しているつもりですが、長年バス山行に参加してくれている年長のお客様からは、温かい目で見守られていたのではないかと考えています。最後のバス山行には、無理を押して参加してくれた方々もおり、感謝しています。私が参加したバス山行は27回でしかありませんが、特に印象に残っているのは、山岳会に入って間もない頃に参加した大菩薩峠（昭和５３年）です。故真澄会長が赤いネッカチーフをして先頭を歩いていました。お客様の平均年齢も相当若かったのではないかと思います。このバス山行を１００回続けてこられた諸先輩に敬意を表します。またこのバス山行は銀嶺山岳会の誇れる歴史だとも思います。

バス山行を終了し、肩の荷が下りた思いもありますが、毎年、春と秋に一緒に山歩きをした山仲間の顔を見ることが出来なくなり、残念でなりません。

この７年間、一緒にバス山行実施の為、参加協力してくれた会員の皆様、ありがとうございました。

市民バス山行の記録

	(春)	(秋)
昭和37年		大菩薩峠
38		
39		谷川岳
40		谷川岳
41		日光白根山
42		雲取山
43		
44		三ツ峠
45	乾徳山	至仏山
46	御坂山	谷川岳天神峠
47	夜叉神峠	平標山
48	黒川鶏冠山	平標山
49	乾徳山	安達太良山
50	両神山	平標山
51	尾瀬ヶ原	金峰山
52	御坂黒岳	二子山
53	大菩薩峠	金峰山
54	瑞牆山	安達太良山
55	乾徳山	至仏山
56	北八ッ天狗	日光白根山
57	茅ヶ岳	安達太良山
58	日向山	尾瀬ヶ原
59	八ッ編笠山	谷川岳
60	八ッ西天狗岳	燧岳
61	八ッ硫黄岳	会津駒ヶ岳
62	金峰山	日光白根山
63	黒斑山	上州武尊山
平成元年	瑞牆山	白毛門
2	至仏山	平標山
3	蓼科山	甲斐駒、仙丈
4	会津田代山	那須
5	一切経山	尾瀬裏燧
6	鼻曲山	木曽駒ヶ岳
7	雲取山	苗場山
8	四阿山	磐梯山、西吾妻
9	山伏	朝日・竜門岳
10	甲武信岳	両神山
11	浅草岳	南蔵王
12	北八ッ天狗岳	巻機山
13	鹿島槍ヶ岳	舟形山
14	浅間山	御神楽岳
15	大嵐山	守門岳
16	八ッ西岳	面白山
17	御座山	栗駒山
18	恵那山	会津駒ヶ岳
19	岩菅山	月山
20	十枚山	本名御神楽岳
21	白砂山	祝瓶山
22	尾瀬ヶ原	玉原鹿俣山
23	―	飯縄山
24	八ッ硫黄岳	小野岳
25	五頭山	根子岳
26	北八ッ茶臼	三壁山
27	荒船山	猫魔ヶ岳
28	天城山	

バス山行　登山図

※　市民バス山行ですが、会員及び参加者の高齢化や安全管理等の事情により、今回をもちまして終了となりました。長いあいだ ありがとうございました。

屋久島　幻の竜王の滝

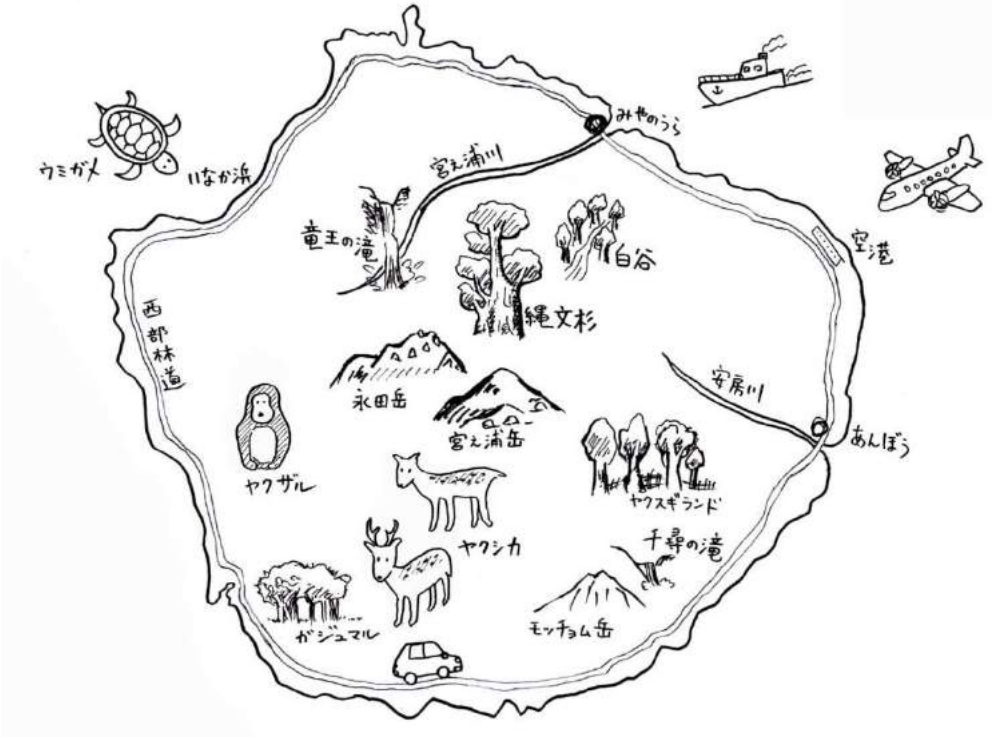
金 井 秀 明

屋久島で有名な滝といえば千尋の滝や大川の滝がありますが、いちばん大きな滝は宮之浦川の上流にある竜王の滝だそうです。沢登りでしかたどり着けない滝であり、島でガイドをしている私の娘が、ぜひ一緒に行こうというので、10 月のはじめに予定を組みました。

未知の山域なのでネットで事前に情報収集。しかし有効な資料は少ない。70～80 年代に屋久島の沢にかなり入った熊本ヤブコギマーズや鹿児島大学山岳部の資料が散見されるが、ちょっと古い。さらに遡行図はなかなか見つからない。しかし出発が近くなったとき、わらじの仲間の記録を発見。さらに京都大ワンゲルが９月に行った記録をアップしてくれたので重要な参考資料となりました。宮之浦川全体の遡行は国内最難関クラスの５級ですが、竜王の滝までの往復ならなんとかなりそうです。

一週間前に山道具をゆうパックで送って準備万端、いよいよ屋久島へ出発。わくわくした気持ちと沢への緊張感がこの身を包みます。

ところが・・・　屋久島に到着したら台風接近で連日の雨。沢どころか山にも登れませんでした、　　残念！



チーフリーダー記

天候が安定しないと山行予定も

宮 崎　睦

８月下旬から１０月上旬までの間は、日本列島に毎週台風が上陸や接近し、それに伴い秋雨前線の活動も活発になり、各地で記録的な突風や豪雨による多数の被害が発生しました。

また、秋雨前線により天候がぐずついて小雨が降る日が多く、山行計画が延期や中止になった方もいると思います。

冬は記録的な積雪の少なさで、スキー場もオープンが遅れたりクローズの日程も早まったりしていました。私も、計画していた山スキーは積雪が少ないため、場所を変更しなければならないこともありました。

以前に比べると、ここ数年夏季は猛暑や集中豪雨、冬季は数年前の記録的な豪雪の年や、極端に積雪の少ない年も有り、気候の変化が激しくなってきているのではないでしょうか。

私も、今年は当初の山行計画が天気予報が悪いので延期したり、また延期すると参加者との日程調整が合わなくなり、中止になることもありました。

自然相手の趣味ですので、無理して計画を実施し、悪天候の辛い山行も下山後に大変な苦労をしたことで達成感が有ったとの考えも良いのですが、一歩判断を誤れば事故や病気になることも十分に考えられます。

私は年齢を重ねるにつれて体力の低下も有り、段々と辛い厳しい山行よりも安全で楽しい山行になっているこの頃です。

昨年の秋から、会員以外の方に茨城県の山へ同行させてもらう機会があり、それから春にかけて、茨城、栃木の低山に日帰りで数回行きました。

今までの山行は前夜発の２日間が多かったのですが、北関東道や常磐道近くの山は、アプローチの時間も短時間で、早朝発の日帰りで行け、楽しむことができました。

夏季は、低山ですので暑くて辛い山行になるでしょうが、晩秋から春の花の季節までは、降雪もほとんど無く晴れの日が多いので、寒い時の澄み渡った空での山頂や稜線からの眺望や、花を楽しめる山がガイドブックを見ると沢山ありました。

今までは、忘年山行が終わると、山スキーに行く３月までの間はゲレンデスキーが主で山行回数は少なくなっていましたが、日帰りで行ける山行を計画していきたいと思っています。

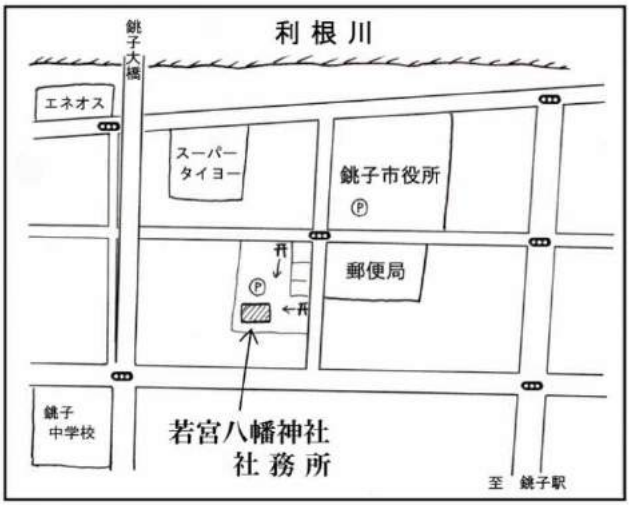
新 人 紹 介

氏　　名　：　バーチカル（ハンドルネーム）
生年月日　：　昭和29年4月17日
趣　　味　：　クライミング、一般道登山、野菜作り
登 山 歴　：　７年
行きたい山：　アイガー、マッターホルン
入会の動機：　道標の無い低山を地図をもとに歩けるようになりたい。

―――― 例会場所の変更 ――――

今年度より、月例集会の場所が右図のように変わりました。
確認をよろしくお願いします。

＊若宮八幡神社境内
　　社務所
　銚子市三軒町６－９



◎ ホームページを活用しよう

銀嶺のホームページですが、今年度から会員専用のパスワード付き掲示板が新設されました。一般の掲示板と使い分けて利用しましょう。書き込みがあるとケータイに通知する機能が便利です。まだ未登録の方はこの機会にぜひ！
（パスワードを忘れた方はまわりの会員にきいてください）

ぎんれいＨＰアドレス　　http://www.asahi-net.or.jp/~cj4k-stu/

表紙のことば

金 井 秀 明

今回の表紙はバス山行以外は考えられないところです。１００回となった今年の天城山の集合写真を描きました。みんないい表情で写っている写真で、バス山行の楽しさが伝わってくるようでした。

地方の小さな山岳会が５０年以上にわたりこんなに長く市民山行を続けてきたことは、本当にすごいことだと思います。これにかかわってきた先輩方には敬意を抱くと同時に、あまり役にたてなかった自分を反省いたします。

山登りを趣味にしているということで、たまに知り合いから山に連れてってくれと頼まれることがありますが、バス山行の精神を胸に秘めてやっていきたいと思います。

平成２８年度　役員

会　　長	古 川 進 一
副 会 長	水 野 照 雄　金 井 秀 明
ﾁｰﾌﾘｰﾀﾞｰ	宮 崎　睦
リーダー	水 野 照 雄　高 橋 恵 美 子
	遠 藤 博 昭　原 田 裕 之
事 務 局	金 井 秀 明
会　　計	内 田 章 子　永 井 陸 夫
バス山行	水 野 照 雄
庶務連絡	佐 藤 健 一
装　　備	金 井 秀 明
会報編集	金 井 秀 明　水 野 照 雄　高 橋　忠
	内 田 章 子　高 橋 恵 美 子　高 橋 充 夫

ふ み あ と

平成 27 年

9 月 27～30 日	和賀岳・・・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、高橋忠
10 月 30～1 日	博士山(きのこ山行)・・・・・・・・・	遠藤、佐藤、宮崎、内田 高橋忠、高橋充、他１名
17～18 日	北横岳・・・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、他１２名
11 月 12～14 日	金峰山・・・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、高橋忠、遠藤、佐久間
28 日	鍋足山・・・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、他２名
12 月 16～18 日	浅間隠山，小浅間山(忘年山行)・・・	水野、宮崎、佐藤、遠藤 内田、高橋恵、高橋忠

平成 28 年

1 月 10 日	鳴虫山・・・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、遠藤、高橋忠、佐久間
2 月 4～5 日	天狗岳・・・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、他２名
19～21 日	宝台樹(スキー合宿)・・・・・・・・・	関、永井、佐藤、高橋充
〃	赤城山(スキー合宿　山班)・・・・・	宮崎、水野、遠藤、高橋忠 井上、佐久間
3 月 3 日	堅破山・・・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、他３名
10～12 日	西吾妻山、雄国山・・・・・・・・・・	宮崎、高橋忠
18 日	雨巻山・・・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、高橋忠
28～30 日	栗駒山・・・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、水野、遠藤、高橋忠
4 月 2 日	古賀志山・・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、遠藤、高橋忠
15 日	太平山、晃石山、馬入不山・・・・・	宮崎、遠藤、高橋忠
22～24 日	燧ヶ岳・・・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、高橋忠
5 月 1～4 日	鳥海山・・・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、遠藤、高橋忠 、井上
13 日	堅破山・・・・・・・・・・・・・・・・	高橋忠
20～21 日	天城山(市民バス山行)・・・・・・・・	水野、宮崎、佐藤、高橋恵 内田、遠藤、宮内、高橋忠 高橋充、一般 20 名
22 日	谷川岳、西黒尾根・・・・・・・	原田
28 日	男体山、志津乗越・・・・・・・	原田

28～29 日	スッカン沢、桜沢・・・・・・・・・・	宮崎、高橋忠
6 月 3～5 日	地蔵岳(山菜山行)・・・・・・・・・・	水野、内田、永井、佐藤 金井、遠藤、高橋忠
5 日	燧岳・・・・・・・・・・・・・・	原田
12 日	滝川金山沢（敗退)・・・・・・	原田
17～20 日	滑谷沢左俣・・・・・・・・・・・・・	宮崎、遠藤、高橋忠
19 日	ドビン沢左股～温泉ヶ岳・・・・	原田
25 日	奥多摩、シダクラ沢・・・・・	原田
25～26 日	大滝沢・・・・・・・・・・・・・	金井、他３名
27～30 日	岩木山～八甲田山	宮内、他１名
30～2 日	雄国沼、杉田川・・・・・・・・・・・	宮崎、高橋忠
7 月 28～30 日	大白沢、クロウ沢・・・・・・・・・・	宮崎、高橋忠
8 月 2～5 日	白峰三山	バーチカル
5～8 日	雨飾山(夏山合宿)・・・・・・・・・・	宮崎、水野、内田、遠藤 高橋恵、高橋忠、佐久間
12 日	葛葉川（林道まで)・・・・・・	原田、原田晃
18～20 日	阿武隈川本谷・・・・・・・・・・・・	宮崎、高橋忠
24～26 日	餓鬼岳・・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、他２名
9 月 8～11 日	恋ノ岐川 ・・・・・・・・・・・・・	宮崎、高橋忠
28～30 日	白川・大日杉小屋・・・・・・・	宮崎、水野、佐藤、遠藤 内田
10 月 13～16 日	秋田駒ヶ岳、乳頭山・・・・・・・・・・・・・	遠藤、水野、宮崎、佐藤、 高橋忠、佐久間
19～21 日	五頭山・・・・・・・・・・・・・	水野、他１名
27～30 日	惣山（きのこ山行)・・・・・・	水野、宮崎、佐藤、高橋忠、 遠藤、内田、永井、高橋充

編　集　後　記

何年か前までのように、ザックを担いでやっと着く小屋ではなく、車で行けそうな所ばかりが、山での常宿になりつつある。
沼沢湖のバンガロー、大日杉小屋、国見温泉のロッジなどなど。

内　田　章　子

銚子のマラソンで、ここ数年１０㎞区間に参加していた健一さんが、今年はハーフに挑戦！　すごいなあ～、見習いたいけど走りたくはない。

金　井　秀　明

山へ行けないストレスを解消するがごとく甘いものばかりを食べているので、糖尿病になるんじゃないかと不安になる今日この頃です。

高　橋　恵　美　子

６月に坐骨神経痛にかかり痛い思いをしました。山登りも何回も不参加となり、残念な一年になってしまいました。体のメンテナンスが大事だとつくづく思うこの頃です

高　橋　充　夫

ここまで、２１回の山行。残り２回の計画があるが、目標の２４回になかなか到達しない。前半は調子よく回を重ねたが、後半天候不順で失速。しかし、山スキー、沢、登山いずれも今まで以上に内容の濃い、楽しい山行でした。大満足の１年を過ごすことが出来ました。山行計画をして頂いた、リーダー達に感謝です。

高　橋　忠

昨年の秋に痛めた左肩がいまだ完治せず、７月には肋骨を痛め、良くなったと思ったら、９月の釣りで転倒して再び肋骨を痛めてしまった。そんな中、何とか最低限の山行はできた。来年はふたたび上昇に転じられたらと思っています。

水　野　照　雄

「ぎんれい７２号」

発　　行　〒288-0837
千葉県銚子市長塚町３－１４８
銀 嶺 山 岳 会
TEL.　0479(22)7698
http://www.asahi-net.or.jp/~cj4k-stu/

編　　集　編集委員
発行月日　平成２８年１２月１日
印　　刷　フルノライフベスト株式会社